

2025 年度
履修案内・
授業内容(シラバス)

6 年生



杏林大学医学部

目次

項目	ページ
学生諸君へ	3
履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって	3
杏林大学医学部の使命	4
教育理念	4
教育目標	6
杏林大学医学部学生の到達目標	6
6年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）	7
生涯教育	7
カリキュラムの概要	8
学年別科目等一覧	11
成績評価	12
授業時間、使用講義室	14
時間割表	15
公衆衛生学	21
臨床総合演習	26
臨床総合演習 呼吸器（呼吸器内科学）	27
臨床総合演習 呼吸器（呼吸器・甲状腺外科学）	29
臨床総合演習 神経（脳神経内科学・脳卒中医学）	31
臨床総合演習 神経（脳神経外科学）	33
臨床総合演習 腎臓病学	35
臨床総合演習 免疫・アレルギー病学	38
臨床総合演習 循環器（循環器内科学）	40
臨床総合演習 循環器（心臓血管外科学）	42
臨床総合演習 血液病学	44
臨床総合演習 内分泌・代謝病学	46
臨床総合演習 消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）	49
臨床総合演習 消化管、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）	51
臨床総合演習 感染症（臨床感染症学）	53
臨床総合演習 感染症（感染症学）	55
臨床総合演習 高齢医学	57
臨床総合演習 医学総論・生活習慣病（予防医学）	59
臨床総合演習 医学総論等（医療の質と安全・医療事故防止）	61
臨床総合演習 外科総論	63
臨床総合演習 乳腺外科学	65
臨床総合演習 麻酔科学	67
臨床総合演習 形成外科学	69
臨床総合演習 精神神経科学	71
臨床総合演習 小児（小児科学）	73
臨床総合演習 小児（小児外科学）	75
臨床総合演習 産科婦人科学	77
臨床総合演習 運動器（整形外科）	79
臨床総合演習 リハビリテーション医学	81
臨床総合演習 泌尿器科学	83
臨床総合演習 皮膚科学	85
臨床総合演習 眼科学	87
臨床総合演習 耳鼻咽喉科学	89
臨床総合演習 救急、中毒（救急医学）	91
臨床総合演習 法医学	93
臨床総合演習 臨床検査医学・輸血学	95
臨床総合演習 病理学	97
臨床総合演習 社会医学（公衆衛生学）	99

学生諸君へ

医学部長 平形 明人

医学部は、学生が医学の基本知識を学ぶとともに、医師として社会に貢献するための行動基準や倫理観を身につける場です。

皆さんは、ともに良き医師あるいは医学者となることを目指して医学部に入学しました。そのために不可欠な学習および生活指針が書かれているのが、履修案内・授業内容（シラバス）と学生案内です。この指針に沿った授業内容は、プロフェッショナルな医師になるために必要な学習ですから、努力を惜しまずに励んでください。

医学の進歩は早く、その情報量は膨大です。良い医師になるためには、生涯にわたって学習する必要があります。知識を得るだけでなく、それを医療に応用するための教養を高めるために、自ら学ぶ姿勢とする習慣、医師としての態度や価値観を養成するのが医学部教育の基本です。

講義や実習に必ず出席し、先生方から、それぞれの分野での豊かな経験に裏打ちされた生きた指導を受けることが大切です。そして、そこで提示される膨大な情報を咀嚼するためには、自ら学ぶ姿勢をもって勉学に臨むことが不可欠です。

諸君は、医師として社会に貢献したい、という強い意志を持って、本学で学ぶ決意をされたことと思います。その初心を忘れることなく、勉学に邁進してください。

履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって

教務部長 柴原 純二

医師には、広い医学知識や高度な医療技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理性が求められます。このことは、令和4年度に改訂された『医学教育モデル・コア・カリキュラム』の「医師として求められる基本的な資質・能力」にも明確に示されています。学生諸君はこの社会の要請に応えるべく、真摯な姿勢で医学の勉学に励むとともに、社会の規律を率先して守り、また、人間性を高める努力を怠ってはいけません。

医学部6年間の教科内容は医学ならびに医学周辺の自然科学領域ばかりではなく、人文科学や社会科学に至るまで、多岐にわたっています。学習量は膨大ですが、科目毎に、そして学年毎に着実に修得していけば、最終的に目標が達成されるよう、カリキュラムは構成されています。

この「履修案内・授業内容（シラバス）」は、杏林大学医学部の教育理念・教育目標と学生の到達目標を示すとともに、6年間のカリキュラムの概要から各学年各科目の詳細な学習内容まで、整理して提示しています。ここには年間の時間割の他、教科毎の教育方針、到達目標、授業や実習の内容や日程、成績の判定評価法、教科書・参考書などが記載されています。

「履修案内・授業内容（シラバス）」の基本的な利用例は以下の通りですが、学習のよき道しるべとして、各自の工夫で使いこなしてください。

- 1) 教育理念・教育目標、6年間の到達目標を定期的に確認し、学習の姿勢や方向性を見直す。
- 2) 各教科の「教育の基本方針」、「到達目標」をよく読み、その授業を通して到達すべき目標を明確にする。
- 3) 各授業や実習の前には「講義テーマ」および「講義内容」に目を通し、履修すべき内容をあらかじめ把握しておく。
- 4) 各授業の「教科書」の該当ページを参照して予習を行うとともに、参考書等も活用して周辺領域も含めて復習する。

膨大な内容を含む学習を効率的に進めるためには、日々の予習、受講、復習の積み重ねが不可欠であることを十分認識してください。また、医師には生涯にわたる学習が求められるため、学生期間を通じて能動的学習を心掛け、「学ぶ力」を養ってください。

「履修案内・授業内容（シラバス）」を座右に置き、日々、これを活用し、学生諸君全員が無事、所期の目的を達成されることを願ってやみません。

杏林大学医学部の使命

豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を基本とし、生涯にわたり医学の発展・変革に対応しうる知識・技術的基盤と、柔軟な科学的洞察力・問題解決能力を兼ね備えた良き医師・医学者を育成し、もって人類・国際社会の健康・福祉に貢献する。

教育理念

医学部の理念・目的は、「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。

この理念の意味するところは、真理への謙虚な探究心の育成、善なる社会人の養成、そして美しい専門的技量の研磨ということである。

【学位授与の方針(ディプロマポリシー)】

医学部医学科ではその理念に基づき、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定める。必要な単位取得等の卒業要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められる学生に学士（医学）を授与する。

(1) 医師の社会的責任

人間の尊厳と医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性およびプロフェッショナリズムに基づき、全人的医療の担い手として誠実で責任のある行動がとれる。

(2) 医学知識と技能

基本的な医学的知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたり主体性を持って自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。

(3) 問題解決能力・リサーチマインド

医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、論理的思考と科学的分析に基づいた判断を行うことができる。

(4) コミュニケーション力

多様化・国際化の進む社会において、患者・家族・医療者との良好な信頼関係の構築、さらには国内外の医学・医療関係者との交流に必要となる、外国語を含めたコミュニケーション力を有する。

(5) 医学・医療と地域・社会との関わり

公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、最新の国内外の情勢に基づいて地域・国・国際社会の要請に応えることができる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)】

医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語の6つの領域からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、多様な教育方法を適切に組み合わせた授業を実施する。

(1) 教育内容

(1-1) 医師の社会的責任の理解

・医師の職責の理解を促し、高い倫理観と豊かな人間性を涵養するために、生命倫理や医のプロフェッショナルズムなどを教育する講義および実習を配置する。

(1-2) 医学知識と技能を修得

・医学専門教育への円滑な導入を図るために、医学準備教育科目を初年次に配置する。
・現代医学の知識と技能の修得のために、行動科学、基礎医学科目と臨床医学科目の講義及び実習を体系的、順次的に配置するとともに、科目間の有機的連携をはかる。
・生涯にわたって自己の医学知識・技能を改善・発展させる意欲を涵養するために、すべての科目において生涯学習への動機づけとなる内容を取り入れる。

(1-3) 問題解決能力・リサーチマインドの涵養

- ・医学・医療上の課題を解決する能力やリサーチマインドを涵養するために Problem-Based Learning (PBL) を行うとともに、基本的な研究手法や情報通信技術を利用した知的資源の活用法に関する内容を講義および実習に取り入れる。

(1-4) コミュニケーション能力の習得

- ・多様化の進む社会において、様々な人々（患者・家族、医学・医療関係者）と信頼関係を構築し、円滑に意思疎通を図るうえで必要となるコミュニケーション能力の修得のために、心理学やカウンセリングに関する内容などを取り入れた講義および実習を配置する。
- ・日本語以外を母語とする患者・家族との良好な信頼関係の構築や国際社会での活躍に必要な外国語運用能力の修得のために、外国語科目を体系的、順次的に配置する。

(1-5) 医学・医療と地域・社会との関わりの理解

- ・医学・医療と地域・社会との関わりを理解するのに必要な、公衆衛生の基本的な知識および手法の修得のために、社会医学科目を体系的、順次的に配置する。

(2) 教育方法

- ・教育内容の修得を確実なものとするために、教育内容に応じて、講義、演習、実習、地域の医療・福祉現場における体験学習、少人数グループによる能動的学習（アクティブラーニング）などの多様な教育方法を適切に組み合わせて実施する。臨床医学科目においては、見学型の臨床実習に加えて、診療参加型の臨床実習を重点的に配置する。

教育目標

教育理念・目的実現のため、医学部は「医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任ある行動ができること、医師としての基本的な医学的知識及び技能修得していること、的確かつ冷静な問題抽出・解決能力を備えていること、患者・家族との信頼関係の構築とともに、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけていること、公衆衛生や医療制度など社会と医師との関わりを理解していること」を教育目標と定める。医学部学生は卒業までにこの目標に到達することが求められる。

杏林大学医学部学生の到達目標

教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。

(1) 医師の社会的責任

- ①医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
- ②医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
- ③安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
- ④同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。

(2) 医学知識と技能

- ①人体の正常の構造と機能を理解する。
- ②主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
- ③薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
- ④主要疾患の治療法を理解する。
- ⑤心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
- ⑥基本的な身体診察が行える。
- ⑦基本的な心肺蘇生術（basic life support）が行える。
- ⑧病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠（evidence）に基づく解決法を示すことができる。
- ⑨患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
- ⑩カンファランス、回診において適切な症例呈示が行える。
- ⑪適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。

(3) 問題解決能力とリサーチマインド

- ①適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
- ②様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
- ③批判的思考と研究的な態度を身につける。
- ④基本的な医学研究のプロセス（課題・仮説の設定、研究方法の設定、調査・実験の実施、結果の考察、論文の作成）を理解する。
- ⑤自律的で、適切な自己評価に基づいて生涯学び続ける態度と能力を身につける。

(4) コミュニケーション能力

- ①患者、家族、同僚、他職種の人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
- ②患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
- ③診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。

(5) 医学・医療と地域・社会との関わり

- ①健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
- ②わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
- ③個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
- ④健康問題や疾病の予防について地球規模の視野に立って理解する。

6年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
	早期臨床 医学体験	早期臨床 医学体験	早期臨床 医学体験 臨床医学講義	診療準備 学習 臨床医学講義	臨床実習	臨床総合 演習
	社会医学		社会 医学	社会 医学		社会医学
	基礎医学	基礎医学	基礎 医学	基礎 医学		
	PBL			PBL		
	行動科学	行動科学		CBT OSCE		
	医学準備教育	医学準備教育				
	語学	語学	語学	語学	語学	
関連する 到達目標	(1)-①②④ (2)-① (3)-①②③④⑤ (4)-①③ (5)-①	(1)-①②③④ (2)-①③ (3)-①②③④⑤ (4)-①③ (5)-①②③④	(1)-①②③④ (2)-②③④⑤ (3)-①②③④⑤ (4)-①③ (5)-①②	(1)-①②③④ (2)-②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪ (3)-①②③④⑤ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-②③④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪ (3)-①②③⑤ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩⑪ (3)-①②③⑤ (4)-①② (5)-①②③④

生涯教育



※杏林大学医学部学生の到達目標

- (1) 医師の社会的責任
- (2) 医学知識と技能
- (3) 問題解決能力とリサーチマインド
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 医学・医療と地域・社会との関わり

臨床研修の到達目標

- I 行動目標**
医療人として必要な基本姿勢・態度
- (1) 患者－医師関係
 - (2) チーム医療
 - (3) 問題対応能力
 - (4) 安全管理
 - (5) 症例提示
 - (6) 医療の社会性
- II 経験目標**
A 経験すべき診察法・検査・手技
- (1) 医療面接
 - (2) 基本的な身体診察法
 - (3) 基本的な臨床検査
 - (4) 基本的手技
 - (5) 基本的治療法
 - (6) 医療記録
 - (7) 診療計画
- B 経験すべき症状・病態・疾患**
- 1 頻度の高い症状・病態
 - 2 緊急を要する症状・病態
 - 3 経験が求められる疾患・病態
- C 特定の医療現場の経験**
- (1) 救急医療
 - (2) 予防医療
 - (3) 地域医療
 - (4) 周産・小児・成育医療
 - (5) 精神保健・医療
 - (6) 緩和ケア
 - (7) 終末期医療
 - (7) 地域保健

医師のキャリア

臨床医
開業医
研究医
大学院
留学
etc.

カリキュラムの概要

杏林大学医学部のカリキュラムは、カリキュラムポリシーにのっとり、豊かな人間性の涵養および医師に求められる専門的知識と技能の修得、さらには医学の発展に対応しうる総合的判断能力の育成を目的として、諸科目を有機的に配置している。汎用的能力を育むため、各科目において学修者の能動的参加を取り入れた授業・実習法（アクティブ・ラーニング）を積極的に採用している。

以下に、学年毎の概要および学習指針を示す。

第1学年（M1）

高校時代に学習した物理、生物、化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、生物学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。

同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ」、「生命倫理と医療安全」などの講義や、体験学習入門、病院体験学習、患者体験学習の3つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅰ」を通して、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習し、医学生として相応しい価値観や態度を身につける。

体験学習入門では、能動的にチームで協働して多角的に学ぶ難しさと大切さを理解する。病院体験学習（early clinical exposure）は、配属される診療科で医療の実際を体感することを通して、医師の役割を理解し、医学生としての自覚を新たにする。患者体験学習では、OSCE（客観的臨床能力試験）での患者体験により、患者の立場や感情について体験的に学ぶと同時に、将来求められる医学生としての能力を理解する。

チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつつ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。

基礎医学については、分子生物学、代謝生化学、肉眼解剖学の講義が始まる。人体の構造の理解を目指す解剖学や生命現象の根源にせまる分子生物学・代謝生化学を学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。

英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には、将来の活躍する世界を広げるために不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

全学部共通の教養科目の「保健・医療の現状と未来Ⅰ」は医学部では必修であるが、これ以外に他学部が実施する社会学科目「社会と大学Ⅰ～Ⅲ」が自由選択科目として設置され、履修可能となっている。

良き医師になるためには、これらの人文系の学問について学び、人間としての幅を広げることもきわめて重要である。総合大学の医学部に学ぶメリットを生かし、ぜひこれら他学部の教養科目についても積極的に履修してほしい。

第2学年（M2）

将来医師となるための土台となる基礎医学を学ぶ上で重要な学年である。解剖学（肉眼解剖学及び組織解剖学）、統合生理学、病態生理学、細胞生物学、基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学Aなどの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は人体の構造と機能や異常の発生を理解する上できわめて重要なものであり、一部には臨床的内容も含まれる。多くの学生から、「臨床医学に進んで、はじめて基礎科目の重要性を認識した」との声を聞くが、学年が進んでからこれらの科目を一から学びなおすことにはかなりの困難を伴う。生涯学習の土台となる重要な学年であることを自覚し、基礎医学科目の徹底した修得を目指してほしい。

「行動科学Ⅱ」、「早期体験学習Ⅱ」、「人文・生命科学特論」などの講義や体験学習を通して、ヒトの多様なあり方を理解し、医師に求められる人間性や倫理性を身につける。「行動科学Ⅱ」では、医療安全、カウンセリング、生命・医療倫理、コミュニケーション、多様性などについて学習する。身体診察入門、地域体験学習、病院体験学習の3つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅱ」では、身体診察に必要となる基本的な技能の習得、地域の福祉施設や病院での体験学習を通して、医学生としての自覚を高める。

また、「保健・医療の現状と未来Ⅱ」では、臨床医学の最先端の話題に触れ、臨床医学への関心を高めるとともに、基礎医学の学習との関連を学ぶ。

なお第1学年に引き続き、英語に関しては、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

第3学年（M3）

薬理学、病理学、免疫学、遺伝医学などの基礎医学科目が配置されている。これら科目の学習には臨床的内容も多く含まれる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。

科目数の多い学年であるが、やみくもに知識を詰め込むのではなく、それまでに学んだ基礎生命科学や基礎医学の知識を臨床医学の知識と関連づけ、「なぜそうなるのか」ということを良く理解することが、臨床の現場で応用可能なしっかりした知識体系を修得する上で重要である。

身体診察入門、地域・病院体験学習の2つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅲ」では、M4から開始される臨床実習につながる技能、態度を身につける。

その他、必修科目として医学英語が行われる。

第4学年（M4）

第3学年から始まった臨床医学の講義が引き続き行われる。

高齢医学、リウマチ膠原病学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学などが含まれる。臨床医学に関する系統的な知識の修得は、臨床実習に際して不可欠であり、実地臨床への第1歩という認識のもとに学習して欲しい。

また、臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテートして行われる。

その他、和漢医学概論、法医学、臨床医学的な内容を課題としたチュートリアル教育、必修科目としての医学英語が行われる。

後期には臨床実習（Bed Side Learning, BSL）が開始されることになる。臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、公的化された共用試験（コンピュータ試験 CBT と基本的臨床技能試験 OSCE）による評価を受ける。共用試験に合格することは臨床実習履修の要件である。BSL は、これまでに修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ1年間にわたって小グループで各科を順次ローテートして行われる。医学生が、実際の患者に対応する最初の経験であり、臨床医としての姿勢の基本がこの時点で形成されるといっても過言ではない。生涯の理想の医師像を目指す第一歩に相応しい態度で臨んでいただきたい。

BSL においては、医師を志す者として、身だしなみや言葉遣いはもとより、時間厳守、守秘義務などにも十分注意するとともに、病院内は公共の場であることを認識し、私物の持ち込みは最低限にするべきである。また、ひとたび院内感染が発生すると患者のみならず病院機能に甚大な影響を与えることから、感染防御の徹底は臨床実習において不可欠な姿勢であり、必要に応じシミュレーション教育を行うことでその習得を目指す。

なお、第1～4学年で学んだ医学英語から進んで、さらに高度な英語力を身につけたいと希望する学生や、第6学年で海外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語Ⅴ」を選択科目として設定している。

第5学年（M5）

M4 後期に引き続き、臨床実習が主体となる。当学年では、ローテート型の BSL の後に、診療参加型実習をさらに発展させたクリニカルクラークシップが学内・学外医療機関で実施される。クリニカルクラークシップにおいては、自らが担当する患者の担当医になったつもりで病歴を聴取し、課題を解決するための検討を積極的に行う。これまでに修得した医学知識を応用する場であるが、積極的に臨床実習の課題や疑問を解決していかないと、学生間で知識量などに大きく差が開くのもこの時期である。系統だった知識が足りないと感じたら、M4 までに学習した科目を復習し、各科目をローテートしているときに各科の先生に自ら質問し、知識を確実なものにするように心がけて、医師として生涯学習を行うための良い習慣を身につけていただきたい。

なお、M4 と同様であるが、臨床実習においては身だしなみ、言葉遣い、携帯品、時間厳守、守秘義務にも十分注意する。また、感染防御策の習得も肝要であり、そのために必要なシミュレーション教育を行う。

第6学年（M6）

最終学年は、卒業に向けて全科目の総仕上げと、卒後臨床研修への円滑な導入のための準備に当てられる。医学部で学習する知識量は莫大であり、直前数ヶ月の学習で、卒業試験や医師国家試験に合格することは困難である。一日一日の積み重ねで知識を整理するように心がけてほしい。

まず 6 学年の医学知識の総まとめとなる臨床総合演習と公衆衛生学の講義が行われる。総合試験Ⅰ期の後、クリニカルクラークシップが M5 に引き続き行われる。学内もしくは学外（海外を含む）の医療機関で計 12 週間の実習に臨む。クリニカルクラークシップ終了後、臨床総合演習と公衆衛生学の講義が引き続き行われる。総合試験Ⅰ期の成績下位者を対象に補講が行われる。

良き医師への最終段階として、6 年間に学んだ医学知識・技能・態度の最終確認に日夜専心して欲しい。

学習すべき項目の全てが講義や実習で網羅されるわけではなく、大学での学習では自学自習が基本となる。それぞれの科目で教科書が指定されており、講義予定表には各講義に関連する教科書のページも記載されている。また、教科書以外にも参考書や WEB 上の教育リソース等が網羅的に示されている。これらを活用して予習・復習に取り組んでいただきたい。

※各科目に関する質問事項は、各教室（科）教育委員に問い合わせること。

※下記 URL のリンク先より、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医師国家試験出題基準」が閲覧できるため、各自参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/mext_00005.html

医師国家試験出題基準

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000128981_00001.html

学年別科目等一覧

学年	分科	授業科目等
1年	科学と医療	情報科学、行動科学Ⅰ、生命倫理と医療安全、早期体験学習Ⅰ、生物学（入門生物学、生物学）、生体化学（入門化学、生体化学）、医学物理学（入門物理学、医学物理学）、プレチュートリアル、医学統計学
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ
	人体の機能	分子生物学、代謝生化学
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅰ
	外国語	英語・医学英語Ⅰ、実践英語Ⅰ *第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ）
	社会科学	*社会と大学Ⅰ、社会と大学Ⅱ、社会と大学Ⅲ
2年	科学と医療	行動科学Ⅱ、早期体験学習Ⅱ、人文・生命科学特論
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅱ、組織解剖学
	人体の機能	統合生理学、病態生理学、細胞生物学
	異常の発生と制御	基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学A
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅱ
	外国語	英語・医学英語Ⅱ *実践英語Ⅱ、第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ）
3年	科学と医療	早期体験学習Ⅲ
	異常の発生と制御	免疫学、遺伝医学、薬理学、病理学A、病理学B、衛生学
	臨床医学	臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学
	外国語	英語・医学英語Ⅲ
4年	科学と医療	和漢医学概論
	異常の発生と制御	法医学
	臨床医学	リウマチ膠原病学、高齢医学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、臨床感染症学、生活習慣病学、臨床診断学
	グループ実習	B S L
	応用実習	チュートリアル
5年	外国語	英語・医学英語Ⅳ
	グループ実習	B S L
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）A
6年	外国語	*英語・医学英語Ⅴ
	科学と医療	公衆衛生学
	臨床医学	臨床総合演習
6年	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）B
*印：自由選択科目		

成績評価

第1学年（M1）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第2学年（M2）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第3学年（M3）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）または学年末定期試験（学年末）を行う。前期及び学年末定期試験の再試験は、学年末に一括して行う。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト・確認テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第4学年（M4）

- 1) 各履修科目について、夏休み後に定期試験および再試験を行う。
- 2) 夏休み後に共用試験（コンピュータ試験 CBT と実技試験 OSCE）およびその再試験を行う。CBT は全国共通の基準で合否判定が行われる。OSCE は臨床技能・態度についての評価に基づき、合否判定が行われる。
- 3) BSL を履修するための成績判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う（不合格の場合の M4 後半の履修については別途定める）。
- 4) 各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎に S、A、B、C、D（D は不合格）の 5 段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中の V. 評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。
- 5) 進級の判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、各科の BSL の評価、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第5学年（M5）

- 1) 各科のBSLについては、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にS、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中のV. 評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。
- 2) 総合試験を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の2回に分けて行い、第Ⅰ期には再試験の機会を設ける。総合試験の成績の判定には第Ⅰ期の成績を20%、第Ⅱ期の成績を80%として合算した値を用いる。形式、内容、可否判定の詳細については〈M5 総合試験に関する内規〉を参照のこと。
- 3) クリニカルクラークシップの履修内容は、BSLの全体成績、履修態度等を含めて総合的に判断する（クリニカルクラークシップへの参加が適切でないと判断した場合、M5後半の履修については別途定める）。
- 4) クリニカルクラークシップは、S、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で総合評価する。
- 5) 進級の判定は、総合試験の成績（追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、各科のBSLの評価、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第6学年（M6）

- 1) 総合試験（卒業試験）を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の2回に分けて行う。成績の判定には第Ⅰ期の成績を20%、第Ⅱ期の成績を80%として合算した値を用いる。総合試験の形式、内容、可否判定については〈M6 総合試験に関する内規〉を参照のこと。
- 2) 公衆衛生学は、講義の終了後に定期試験および再試験を行う。60点以上を合格とする。
- 3) 共用試験であるOSCEを夏休み後に行う。再試験は総合試験第Ⅰ期終了後に行う。臨床技能・態度についての評価に基づき、合格もしくは不合格の判定を行う。
- 4) クリニカルクラークシップは、S、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で評価する。
- 5) 卒業には、総合試験、公衆衛生学、OSCE、クリニカルクラークシップのいずれにも合格する必要がある。追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も考慮する。さらに、講義の出席率や履修態度なども含めて総合的に評価する。

<共通>

- 1) 再試験で合格となった科目がある場合、本試験における各科目の成績の状況は、進級判定における重要な要素となるので、本試験において最良の結果を出せるよう試験前には常に計画的に学習を行うこと。
- 2) 小テスト、確認テスト等については、試験後に可能な限りフィードバック（形成的評価）を行うので、以後の学習に役立てること。
- 3) 詳細はシラバスの各科目別の項に記載してあるので、確認しておくこと。

授業時間

時限	授業時間
1 時限目	9:30 ～ 10:45
2 時限目	11:00 ～ 12:15
3 時限目	13:15 ～ 14:30
4 時限目	14:45 ～ 16:00
5 時限目	16:15 ～ 17:30

使用講義室

学年	使用講義室
M1	医学部講義棟 A 4 階 401
M2	医学部講義棟 A 4 階 402
M3	医学部講義棟 A 5 階 501
M4	医学部講義棟 A 5 階 502
M5	臨床実習中のため、主な使用講義室はなし
M6	医学部講義棟 A 6 階 601

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
4月1日	火	前期授業開始・オリエンテーション	臨床総合演習	循環器（循環器内科学）	臨床総合演習	感染症（臨床感染症学）	オリエンテーション		臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）
4月2日	水	(授業後・対象者のみ)海外クリクラ説明会	臨床総合演習	血液病学	臨床総合演習	呼吸器（呼吸器内科学）	臨床総合演習	呼吸器（呼吸器内科学）	臨床総合演習	免疫・アレルギー病学
4月3日	木						公衆衛生学		臨床総合演習	腎臓病学
4月4日	金				臨床総合演習	血液病学	臨床総合演習	感染症（臨床感染症学）		
4月5日	土									
4月6日	日									
4月7日	月		臨床総合演習	内分泌・代謝病学	臨床総合演習	内分泌・代謝病学			臨床総合演習	循環器（心臓血管外科学）
4月8日	火	(授業後)OSCE説明会	臨床総合演習	内分泌・代謝病学	臨床総合演習	腎臓病学	臨床総合演習	内分泌・代謝病学	臨床総合演習	神経（脳神経外科学）
4月9日	水		臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）					臨床総合演習	循環器（循環器内科学）
4月10日	木				臨床総合演習	免疫・アレルギー病学	臨床総合演習	感染症（感染症学）	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）
4月11日	金	健康診断	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）	臨床総合演習	血液病学	健康診断		健康診断	
4月12日	土									
4月13日	日									
4月14日	月	健康診断	臨床総合演習	腎臓病学	臨床総合演習	医学総論・生活習慣病（予防医学）	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）	臨床総合演習	呼吸器（呼吸器内科学）
4月15日	火		臨床総合演習	感染症（臨床感染症学）	臨床総合演習	神経（脳神経内科学・脳卒中医学）	臨床総合演習	神経（脳神経内科学・脳卒中医学）	臨床総合演習	神経（脳神経内科学・脳卒中医学）
4月16日	水				臨床総合演習	臨床検査医学・輸血学	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）
4月17日	木				臨床総合演習	循環器（循環器内科学）	臨床総合演習	呼吸器（呼吸器・甲状腺外科学）	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）
4月18日	金		公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学			
4月19日	土									
4月20日	日									
4月21日	月		臨床総合演習	免疫・アレルギー病学	臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）	臨床総合演習	循環器（循環器内科学）		
4月22日	火	授業終了			臨床総合演習	神経（脳神経外科学）	臨床総合演習	高齢医学	臨床総合演習	血液病学
4月23日	水	自習期間								
4月24日	木	自習期間								
4月25日	金	自習期間								
4月26日	土									
4月27日	日									
4月28日	月	自習期間								
4月29日	火	昭和の日								
4月30日	水	M6総合試験1期								
5月1日	木									
5月2日	金	M6OSCE(大学独自)								
5月3日	土	憲法記念日								
5月4日	日	みどりの日								
5月5日	月	こどもの日								
5月6日	火	振替休日								
5月7日	水	CC(第4ターム)								
5月8日	木	CC(第4ターム)								
5月9日	金	CC(第4ターム)								
5月10日	土									
5月11日	日									
5月12日	月	CC(第4ターム)								
5月13日	火	CC(第4ターム)								
5月14日	水	CC(第4ターム)								
5月15日	木	CC(第4ターム)								
5月16日	金	CC(第4ターム)								
5月17日	土									
5月18日	日									
5月19日	月	CC(第4ターム)								
5月20日	火	CC(第4ターム)								
5月21日	水	CC(第4ターム)								
5月22日	木	CC(第4ターム)								
5月23日	金	CC(第4ターム)								
5月24日	土									
5月25日	日									
5月26日	月	CC(第4ターム)								
5月27日	火	CC(第4ターム)								
5月28日	水	CC(第4ターム)								
5月29日	木	CC(第4ターム)								
5月30日	金	CC(第4ターム)								
5月31日	土									

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
6月1日	日									
6月2日	月	CC(第5ターム)								
6月3日	火	CC(第5ターム)								
6月4日	水	CC(第5ターム)								
6月5日	木	CC(第5ターム)								
6月6日	金	CC(第5ターム)								
6月7日	土									
6月8日	日									
6月9日	月	CC(第5ターム)								
6月10日	火	CC(第5ターム)								
6月11日	水	CC(第5ターム)								
6月12日	木	CC(第5ターム)								
6月13日	金	CC(第5ターム)								
6月14日	土									
6月15日	日									
6月16日	月	CC(第5ターム)								
6月17日	火	CC(第5ターム)								
6月18日	水	CC(第5ターム)								
6月19日	木	CC(第5ターム)								
6月20日	金	CC(第5ターム)								
6月21日	土									
6月22日	日									
6月23日	月	CC(第5ターム)								
6月24日	火	CC(第5ターム)								
6月25日	水	CC(第5ターム)								
6月26日	木	CC(第5ターム)								
6月27日	金	CC(第5ターム)								
6月28日	土									
6月29日	日									
6月30日	月	CC(第6ターム)								
7月1日	火	CC(第6ターム)								
7月2日	水	CC(第6ターム)								
7月3日	木	CC(第6ターム)								
7月4日	金	CC(第6ターム)								
7月5日	土									
7月6日	日									
7月7日	月	CC(第6ターム)								
7月8日	火	CC(第6ターム)								
7月9日	水	CC(第6ターム)								
7月10日	木	CC(第6ターム)								
7月11日	金	CC(第6ターム)								
7月12日	土									
7月13日	日									
7月14日	月	CC(第6ターム)								
7月15日	火	CC(第6ターム)								
7月16日	水	CC(第6ターム)								
7月17日	木	CC(第6ターム)								
7月18日	金	CC(第6ターム)								
7月19日	土									
7月20日	日									
7月21日	月	海の日								
7月22日	火	CC(第6ターム)								
7月23日	水	CC(第6ターム)								
7月24日	木	CC(第6ターム)								
7月25日	金	CC(第6ターム)								
7月26日	土									
7月27日	日									
7月28日	月	夏季休業期間	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
7月29日	火	夏季休業期間	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
7月30日	水	夏季休業期間								
7月31日	木	夏季休業期間								

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
8月1日	金	夏季休業期間								
8月2日	土									
8月3日	日									
8月4日	月	夏季休業期間								
8月5日	火	夏季休業期間								
8月6日	水	夏季休業期間								
8月7日	木	夏季休業期間								
8月8日	金	夏季休業期間								
8月9日	土									
8月10日	日									
8月11日	月	山の日								
8月12日	火	夏季休業期間								
8月13日	水	夏季休業期間								
8月14日	木	夏季休業期間								
8月15日	金	夏季休業期間								
8月16日	土									
8月17日	日									
8月18日	月	夏季休業期間								
8月19日	火	夏季休業期間								
8月20日	水	夏季休業期間								
8月21日	木	夏季休業期間								
8月22日	金	夏季休業期間、夏合宿（予定）								
8月23日	土	夏合宿（予定）								
8月24日	日	夏合宿（予定）								
8月25日	月	夏季休業期間、夏合宿（予定）								
8月26日	火	夏季休業期間								
8月27日	水	夏季休業期間								
8月28日	木	夏季休業期間								
8月29日	金	夏季休業期間								
8月30日	土		臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
8月31日	日		臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
9月1日	月	後期授業開始・（授業後）OSCE説明会	臨床総合演習	形成外科学			公衆衛生学		臨床総合演習	麻酔科学
9月2日	火				臨床総合演習	法医学	臨床総合演習	医学総論等（医療の質と安全・医療事故防止）		
9月3日	水		臨床総合演習	産科婦人科学	臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	神経（脳神経内科学・脳脊中医学）	臨床総合演習	眼科学
9月4日	木		臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	感染症（臨床感染症学）	公衆衛生学		公衆衛生学	
9月5日	金		臨床総合演習	乳腺外科学	臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	内分泌・代謝病学		
9月6日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
9月7日	日									
9月8日	月		臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	産科婦人科学	臨床総合演習	産科婦人科学	臨床総合演習	小児（小児外科学）
9月9日	火		公衆衛生学		公衆衛生学		臨床総合演習	リハビリテーション医学	臨床総合演習	腎臓病学
9月10日	水		臨床総合演習	小児（小児科学）			臨床総合演習	呼吸器（呼吸器内科学）	臨床総合演習	眼科学
9月11日	木									
9月12日	金									
9月13日	土	M6OSCE								
9月14日	日									
9月15日	月	敬老の日								
9月16日	火		公衆衛生学		公衆衛生学		臨床総合演習	循環器（循環器内科学）	臨床総合演習	循環器（循環器内科学）
9月17日	水		臨床総合演習	血液病学	臨床総合演習	産科婦人科学	臨床総合演習	産科婦人科学		
9月18日	木		公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学			
9月19日	金		臨床総合演習	外科総論	公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学	
9月20日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
9月21日	日									
9月22日	月		公衆衛生学		公衆衛生学				臨床総合演習	小児（小児外科学）
9月23日	火	秋分の日								
9月24日	水		公衆衛生学		公衆衛生学		臨床総合演習	皮膚科学	臨床総合演習	精神神経科学
9月25日	木		公衆衛生学		公衆衛生学				臨床総合演習	消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）
9月26日	金		臨床総合演習	皮膚科学	公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学	
9月27日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
9月28日	日									
9月29日	月				公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学	
9月30日	火				臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	産科婦人科学		

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
10月1日	水		臨床総合演習	救急、中毒（救急医学）	臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	精神神経科学	臨床総合演習	産科婦人科学
10月2日	木		臨床総合演習	呼吸器（呼吸器内科学）	臨床総合演習	免疫・アレルギー病学	臨床総合演習	呼吸器（呼吸器・甲状腺外科学）	臨床総合演習	病理学
10月3日	金								臨床総合演習	病理学
10月4日	土									
10月5日	日									
10月6日	月		臨床総合演習	産科婦人科学	公衆衛生学		公衆衛生学			
10月7日	火									
10月8日	水		臨床総合演習	救急、中毒（救急医学）	公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学	
10月9日	木				公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学	
10月10日	金		公衆衛生学		公衆衛生学					
10月11日	土									
10月12日	日									
10月13日	月	スポーツの日								
10月14日	火		臨床総合演習	泌尿器科学	臨床総合演習	泌尿器科学	臨床総合演習	運動器（整形外科）		
10月15日	水		臨床総合演習	精神神経科学	臨床総合演習	血液病学				
10月16日	木		公衆衛生学		公衆衛生学		臨床総合演習	内分泌・代謝病学		
10月17日	金		臨床総合演習	小児（小児科学）	臨床総合演習	眼科学	臨床総合演習	小児（小児科学）		
10月18日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
10月19日	日									
10月20日	月									
10月21日	火		臨床総合演習	運動器（整形外科）	臨床総合演習	救急、中毒（救急医学）	臨床総合演習	消化器、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）	臨床総合演習	耳鼻咽喉科学
10月22日	水						臨床総合演習	精神神経科学		
10月23日	木		臨床総合演習	社会医学（公衆衛生学）	臨床総合演習	社会医学（公衆衛生学）	臨床総合演習	神経（脳神経外科学）		
10月24日	金	授業終了								
10月25日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
10月26日	日									
10月27日	月	国家試験手続説明会(予定)								
10月28日	火									
10月29日	水									
10月30日	木									
10月31日	金									
11月1日	土		臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義	臨床総合演習	特別講義
11月2日	日									
11月3日	月	文化の日								
11月4日	火	自習期間								
11月5日	水	自習期間								
11月6日	木	自習期間								
11月7日	金	自習期間								
11月8日	土									
11月9日	日									
11月10日	月	自習期間								
11月11日	火	創立記念日								
11月12日	水	自習期間								
11月13日	木	自習期間								
11月14日	金	自習期間								
11月15日	土									
11月16日	日									
11月17日	月	M6総合試験2期試験(1日目)								
11月18日	火	M6総合試験2期試験(2日目)								
11月19日	水	自習期間								
11月20日	木	自習期間								
11月21日	金	自習期間								
11月22日	土									
11月23日	日	勤労感謝の日								
11月24日	月	振替休日								
11月25日	火	自習期間	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
11月26日	水	自習期間	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
11月27日	木	自習期間								
11月28日	金	自習期間								
11月29日	土									
11月30日	日									

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
12月1日	月	M6OSCE再試験								
12月2日	火	自習期間								
12月3日	水	自習期間								
12月4日	木	自習期間								
12月5日	金	自習期間								
12月6日	土									
12月7日	日									
12月8日	月	自習期間								
12月9日	火	自習期間								
12月10日	水	自習期間								
12月11日	木	自習期間								
12月12日	金	自習期間								
12月13日	土									
12月14日	日									
12月15日	月	冬季休業期間								
12月16日	火	冬季休業期間								
12月17日	水	冬季休業期間								
12月18日	木	冬季休業期間								
12月19日	金	冬季休業期間								
12月20日	土									
12月21日	日									
12月22日	月	冬季休業期間								
12月23日	火	冬季休業期間								
12月24日	水	冬季休業期間								
12月25日	木	冬季休業期間								
12月26日	金	冬季休業期間								
12月27日	土									
12月28日	日									
12月29日	月	年末年始（学内立入禁止）								
12月30日	火	年末年始（学内立入禁止）								
12月31日	水	年末年始（学内立入禁止）								
1月1日	木	元日（学内立入禁止）								
1月2日	金	年末年始（学内立入禁止）								
1月3日	土	年末年始（学内立入禁止）								
1月4日	日									
1月5日	月	M6総合試験再試験(1日目)								
1月6日	火	M6総合試験再試験(2日目)								
1月7日	水	自習期間								
1月8日	木	自習期間								
1月9日	金	自習期間								
1月10日	土									
1月11日	日		臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
1月12日	月	成人の日	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験	臨床総合演習	模擬試験
1月13日	火	自習期間								
1月14日	水	自習期間								
1月15日	木	自習期間								
1月16日	金	自習期間								
1月17日	土									
1月18日	日									
1月19日	月	自習期間								
1月20日	火	自習期間								
1月21日	水	自習期間								
1月22日	木	自習期間								
1月23日	金	自習期間								
1月24日	土									
1月25日	日									
1月26日	月	自習期間								
1月27日	火	自習期間								
1月28日	水	自習期間								
1月29日	木	自習期間								
1月30日	金	自習期間								
1月31日	土									

2025年度 M6 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)		2時限目(11:00~12:15)		3時限目(13:15~14:30)		4時限目(14:45~16:00)	
2月1日	日									
2月2日	月	自習期間								
2月3日	火	自習期間								
2月4日	水	自習期間								
2月5日	木	自習期間								
2月6日	金	自習期間								
2月7日	土									
2月8日	日									
2月9日	月	春季休業期間								
2月10日	火	春季休業期間								
2月11日	水	建国記念の日								
2月12日	木	春季休業期間								
2月13日	金	春季休業期間								
2月14日	土									
2月15日	日									
2月16日	月	春季休業期間								
2月17日	火	春季休業期間								
2月18日	水	春季休業期間								
2月19日	木	春季休業期間								
2月20日	金	春季休業期間								
2月21日	土									
2月22日	日									
2月23日	月	天皇誕生日								
2月24日	火	春季休業期間								
2月25日	水	春季休業期間								
2月26日	木	春季休業期間								
2月27日	金	春季休業期間								
2月28日	土									
3月1日	日									
3月2日	月	春季休業期間								
3月3日	火	春季休業期間								
3月4日	水	春季休業期間								
3月5日	木	春季休業期間								
3月6日	金	春季休業期間								
3月7日	土									
3月8日	日									
3月9日	月	春季休業期間								
3月10日	火	春季休業期間								
3月11日	水	春季休業期間								
3月12日	木	春季休業期間								
3月13日	金	春季休業期間								
3月14日	土									
3月15日	日	卒業式								
3月16日	月	春季休業期間								
3月17日	火	春季休業期間								
3月18日	水	春季休業期間								
3月19日	木	春季休業期間								
3月20日	金	春分の日								
3月21日	土									
3月22日	日									
3月23日	月	春季休業期間								
3月24日	火	春季休業期間								
3月25日	水	春季休業期間								
3月26日	木	春季休業期間								
3月27日	金	春季休業期間								
3月28日	土									
3月29日	日									
3月30日	月	春季休業期間								
3月31日	火	春季休業期間								

年度	2025年度	学年	6年
学科目	公衆衛生学	科目ナンバリング	FME-5E08
単位	3単位	コマ数	41コマ
科目責任者	苅田香苗 教授		
担当教員	教 授 苅田香苗 准教授 吉田正雄 講 師 白土 健 教 授 菅田慎一（代謝生化学） 兼任准教授 岡本博照（保健学部） 客員教授 木崎節子、照屋浩司 非常勤講師 武藤 剛 その他の担当教員は講義予定表に記載		

A．教育の基本方針	公衆衛生学は、人々の健康の維持・増進と生活の質の向上を目指す実践の学問であるため、健康状態に影響するライフスタイル、生活環境、社会状況、人口統計等の各因子を分析し評価する方法を教授する。健康課題の解決のために必要な保健医療制度、医療経済、社会保障・社会福祉に係わる知識を身に付け、個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を修得する。さらに、予防医学活動と地域保健活動の意義と重要性について、国際的視野に立って認識を深めることを目指す。
B．到達目標	人の健康に関する状況と生活環境を学び、健康増進・疾患予防における公衆衛生学の役割とその活用についての考え方を習得する。保健医療活動を行う上で必要とされる諸法規の種類とその基本的内容、疫学の意義と方法論を把握するとともに、各種医療専門職の役割を説明できるようにする。予防医学、臨床医学、福祉活動の相互関連性を理解した上で、望ましい社会制度や地域保健活動ならびにグローバルな保健医療活動を追求する視点と能力を養うことを目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③, (2)-①,②,③,④,⑤,⑨, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1．集団の健康増進・疾病予防に有用な公衆衛生的事象や概念について説明できる。 2．わが国の保健・医療・福祉・介護の現状と問題点を述べることができる。 3．わが国の保健・医療・福祉・介護における対策・制度を説明できる。 4．公衆衛生関連の統計を収集し分析する能力を身につける。 5．公衆衛生上の課題を解決に導くための基本的態度・習慣・考え方を身につける。
D．学習内容	本学年では、主に下記の各課題を主軸とした系統講義とケーススタディのほか、双方向的Q＆Aや形成的小テストを取り入れたアクティブ・ラーニングを実施する。 講義課題：「公衆衛生総論」「感染症」「国民栄養・食品保健」「地域保健」「成人保健」「高齢者保健」「社会保障と障害者福祉」「精神保健」「母子保健」「学校保健」「国際保健」「環境保健」「産業保健」「疫学」「人口・保健統計」「医療経済」「医の倫理」「死と終末期ケア」「医療関係法規」
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得た上で、講義資料に目を通しておくこと（所要時間の目安：各コマ75分程度）。また新聞やニュース報道に毎日接する習慣を付け、公衆衛生関連のトピックスや統計の記事に着目すること。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや例題・演習問題の解答と教科書・資料の関連ページを熟読して復習すること（所要時間の目安：各コマ75分程度）。
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 履習内容をいかに完全に自分のものとして理解しているかを知るために、講義最終日に試験を実施する。出席率が講義時数の2/3に満たなかった者は受験する資格はない。 2．試験の期日と実施方法 期日：2025年10月16日（木）（予定） 方法：試験は講義最終日にマークシート使用による選択式テストを実施する。試験は、模範解答・点数をもって、フィードバックする。再試験では、口頭試問を実施する場合もある。 3．評価法 評価に当たっては、試験の得点のみにとどまらず、出席状況、講義期間中に実施した小テスト得点、講義・演習の履習態度も加味する。 4．判定基準 可否の境界線は60点とする。 5．フィードバック方法 試験終了後に問題解説書を配布する。
I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	1)New Simple Step 公衆衛生 高橋茂樹、西 基著 第2版 総合医学社 2023 ISBN 978-4-88378-931-3 6,500円+税
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 1）厚生統計協会 「国民衛生の動向」2024／2025（2025／2026年版は8月末～9月初め頃に出版される）2,970円(税込) (R) 2）岸 玲子、古野純典、大前和幸、小泉昭夫 編 「NEW予防医学・公衆衛生学」改訂第4版 南江堂 2018 6,930円(税込)

	※(R) : Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A) : Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B (図書館等での利用をすすめるもの)	(A) 1) 高島 豊 編著 「疫学の理論と実践」杏林書院 2007 (A) 2) レオン・ゴルディス著、木原正博訳「疫学-医学研究と実践のサイエンス」メディカル・サイエンス・インターナショナル 2010 (A) 3) Detels R : Oxford textbook of Public Health (6ed.) , Oxford University press 2015 (A) 4) 小橋元 (獨協医科大学)「EBMと研究デザイン」(オープン教育リソース) ・動画 https://www.youtube.com/watch?v=KFtkNPiZdv0 ・資料 https://www.dokkyomed.ac.jp/files/dmu/academy/open-education01.pdf ※(R) : Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A) : Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【公衆衛生学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	3	公衆衛生総論・健康教育	健康や予防医学の概念と公衆衛生学的重要用語を説明する。また、健康教育の理論と手法について、例として喫煙問題を取り上げ、健康維持のための行動モデル理論等についての概略を学ぶ。KW=健康増進、健康教育、保健行動モデル、行動変容、ニコチン依存症、受動喫煙、禁煙対策	荻田香苗	2-17	講義(AL)
4/18	金	1	医療経済	医療経済に関連する指標の国際比較と公的年金制度について講義し、小問（口頭orコンピュータによる双方向システムによるQ&A）を解きながら理解を深める。KW=OECD、GDP、所得、平均寿命、医療費、社会保障費の国民負担率、相対的貧困率、ジニ係数、公的年金、高額療養費制度	荻田慎一	99-114	講義(AL)
4/18	金	2	肥満・生活習慣病と運動効果	大きな社会問題となっている肥満者や生活習慣病患者の増加について最新のデータを交えながら解説する。さらに、肥満・生活習慣病の予防・改善に対する運動などの効果や我が国の取り組みについて学ぶ。KW=生活習慣病、運動	白土健	196-201, 275-294	講義(AL)
4/18	金	3	社会と医療（総論）	医療制度、医療経済、患者・障害者のもつ心理・社会的問題、保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携について学ぶ。KW=医師法、医療法、医療保険制度、介護保険制度、国民医療費、国際生活機能分類、職種と業務	吉田正雄	2-17, 99-161	講義(AL)
9/1	月	3	産業保健Ⅰ（産業医・飲酒問題）（特別講義）	産業医の制度と役割、産業保健の三管理、健康診断の制度などについて学ぶ。さらには、精神保健・生活習慣病・産業保健などの多角的観点から飲酒問題についても取り上げる。理解のため演習問題を配布し、時間をおいて正解も配布する。KW=労働安全衛生法、産業医、作業環境管理、作業管理、健康管理、定期健康診断、特殊健康診断、許容濃度、バイオロジカルモニタリング、生活習慣病、アルコール依存症、EAP、断酒会	角田透	2-17, 306-351	演習
9/4	木	3	国民栄養・食品保健	厚生労働省が毎年、実施・公表している国民健康・栄養調査を基に栄養素等摂取量等の推移と疾病構造の変化との関連について学ぶ。また、健康の保持増進、疾病の予防・治療・回復などに必要不可欠な「食」の安全の確保に関する施策についても理解を深める。演習を交え解説を行う。	武藤剛	275-294	演習
9/4	木	4	栄養・休養と生活習慣病	生活習慣と関連の深い疾病について栄養管理や生活改善の方法と指針を学び、疾病の背景にあるヒトや集団の行動を、心理社会的側面を含めた観点で考える。演習を交え解説を行う。KW=行動医学、食事指導、重症化予防、職場復帰支援、睡眠障害、ストレス対策	武藤剛	196-201, 275-294	演習
9/9	火	1	精神保健	わが国の精神保健について関連法規、医療費、統計、社会復帰や地域精神保健活動への展開について解説、演習を行う。KW=精神保健福祉法、入院形態、精神障害者社会復帰施設、精神科デイケア、自殺対策基本法	松井知子	234-244	演習
9/9	火	2	企業・学校での精神保健	企業内精神保健マネジメントに関するフレームワーク、および児童・生徒のメンタルヘルスの問題と対応、教師のメンタルヘルスの問題などについて、解説、演習を行う。KW=産業精神保健、メンタルヘルス、職場復帰支援、EAP、スクールカウンセリング、発達障害、学習障害、うつ病	松井知子	295-305, 306-320	演習
9/16	火	1	障害者福祉・難病対策	身体障害者、知的障害者、精神障害者および発達障害者に対する福祉施策とその根拠法を概説する。難病対策が法定化されるまでの経緯、患者に対する公平かつ安定的な医療費助成の仕組みや社会参加促進のための福祉の充実等を基本理念として成立した難病法についても概説する。KW=障害の概念と構造、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障害者基本法、障害者総合支援法、難病法	白土健	226-233	講義(AL)
9/16	火	2	分子予防医学	遺伝子と疾病との関係を理解し、分子生物学の進歩により可能になった難病や生活習慣病に対する遺伝子診断について学ぶとともに、倫理的な問題点を考える。KW=遺伝子疾患、遺伝子診断	木崎節子	397-407	講義
9/18	木	1	環境保健Ⅰ	空気の化学的的正常成分と働き、代表的温熱指標とその測定法、上下水道の仕組み、水質基準、廃棄物管理について学ぶ。KW=環境と適応、生態系と生物濃縮、浄水法と消毒、廃棄処理、居住・衣服環境	荻田香苗	352-379	講義(AL)
9/18	木	2	環境保健Ⅱ	環境汚染および公害の発生要因と現状について学習し、地球環境問題と健康・社会への影響を考える。KW=大気・水質・土壌汚染、公害健康被害、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、環境基準、排出規制、環境影響評価	荻田香苗	352-379	講義(AL)
9/18	木	3	医の倫理、医師の任務	患者の人権と医の倫理に関する規定、インフォームドコンセント、患者の権利に関して演習問題を交えながら理解を深める。KW=ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、医療過誤と医療事故、ヒヤリハット	吉田正雄	397-407	講義(AL)
9/19	金	2	感染症の動向と予防	公衆衛生活動としての感染症対策の歴史を学ぶとともに、予防接種および感染症拡大防止策の現状、主な感染症の届出患者数の推移とその背景を理解する。KW=感染源・感染経路対策、感染症法、検疫、新興・再興感染症、予防接種、標準予防策、結核対策、感染経路別予防対策	荻田香苗	245-274	講義(AL)
9/19	金	3	医療関係法規、地域保健	医療関連法規、地域保健に関して演習問題を交えながら理解を深める。KW=医師法、医療法、刑法、死産の届出に関する規定、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、母体保護法、精神保健福祉法、感染症法、食品衛生法、地域保健法、健康増進法、地域医療	吉田正雄	131-161	講義(AL)
9/19	金	4	死と終末期ケア、死因の究明（演習）	死と終末期ケア、死因の究明について演習と解説を行う。KW=ホスピス、緩和ケアの理念、全人的苦痛の緩和、尊厳死、リビングウィル、安楽死、病死及び自然死、外因死、不詳の死、監察医制度、司法解剖、行政解剖、承諾解剖、病理解剖	吉田正雄	380-396	演習(AL)
9/22	月	1	産業保健Ⅱ（労働衛生）	労働衛生行政の仕組みと関連法規および近年の労働課題を学ぶ。産業現場での主な職業病について、その主要症状、発生現場、検査および治療法を学習し、各種予防対策について理解する。KW=労働基準法、労働者災害補償法、じん肺法、業務上疾病、労働災害、物理的環境因子、熱中症、減圧症、職業癌、振動障害、放射線障害、職業性難聴、作業様態による障害	荻田香苗	306-351	講義(AL)
9/22	月	2	産業保健Ⅲ（産業中毒）	産業現場における有害物質への曝露、主に有機溶剤、有機化合物、金属、ガス曝露による中毒について、その健康影響と診察・検査方法を学ぶ。KW=労働衛生管理体制、有機溶剤中毒、金属中毒、ガス中毒、農薬中毒、職業性喘息、アレルギー性接触皮膚炎、酸素欠乏症	荻田香苗	306-351	講義(AL)

2025年度 6年 講義予定表

【公衆衛生学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/24	水	1	医療面接（演習）	実際の医療面接のケースを数多く例示し、会話を通じて診断に必要な情報を収集し、良好な医師－患者関係の確立するための医療面接の進め方についてディスカッションを重ねながら理解を深める。KW＝患者医師関係、言語的・非言語的コミュニケーション、解釈モデル、パターンリズム	吉田正雄	397-407	演習(AL)
9/24	水	2	医療面接（演習）	実際の医療面接のケースを数多く例示し、会話を通じて診断に必要な情報を収集し、良好な医師－患者関係の確立するための医療面接の進め方についてディスカッションを重ねながら理解を深める。KW＝患者医師関係、言語的・非言語的コミュニケーション、解釈モデル、パターンリズム	吉田正雄	397-401	演習(AL)
9/25	木	1	社会保障制度	わが国の社会保障の概念、社会保障制度、社会保険、医療保険制度について講義する。KW＝社会保障制度、社会保険、医療保障制度、医療保険、公的医療、国民皆保険、現物給付、社会保険方式、国際生活機能分類	岡本博照	99-114	講義
9/25	木	2	人口保健統計	集団の健康指標とわが国の最近の値を知り、わが国の公衆衛生の特徴と課題について保健統計を用いて考える。KW＝人口静態統計、人口動態統計、国民生活基礎調査、患者調査、受療率、合計特殊出生率、平均余命、人口ピラミッド	岡本博照	66-98	講義
9/26	金	2	疫学・人口の動向	疫学の概念と方法、基本的な指標について学び、因果関係の考え方を理解する。「国民衛生の動向」の関連資料を基にわが国の人口・厚生統計に関する知識を深める。KW＝記述疫学、分析疫学、標本の抽出、無作為化、介入、精度と正確度、人口指数、国勢調査、出生・疾病・死因統計	苅田香苗	18-98	講義(AL)
9/26	金	3	感染症法と感染症の疫学（特別講義）	感染症法の内容を解説し、感染症が社会に与えてきた影響を歴史的に考察し、現代の感染症疫学についても現状を把握し、課題を考える。理解のため演習問題を配布し、時間をおいて正解も配布する。また、現在、社会生活に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症と世界三大感染症の一つで、守秘と人権擁護が最も厳しく求められるAIDSについて、特に詳しく説明し、両疾患の社会医学的課題を理解することも目的とする。	鎌倉光宏	245-274	演習
9/26	金	4	感染症法と感染症の疫学（特別講義）	感染症法の内容を解説し、感染症が社会に与えてきた影響を歴史的に考察し、現代の感染症疫学についても現状を把握し、課題を考える。理解のため演習問題を配布し、時間をおいて正解も配布する。また、現在、社会生活に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症と世界三大感染症の一つで、守秘と人権擁護が最も厳しく求められるAIDSについて、特に詳しく説明し、両疾患の社会医学的課題を理解することも目的とする。	鎌倉光宏	245-274	演習
9/29	月	2	母子保健（演習）	母子保健の統計、母子健康手帳、健康診査、新生児マス・スクリーニング、母子保健法、母体保護法、周産期死亡、妊娠婦死亡について解説する。KW＝母子保健の統計、母子保健法、母体保護法	白土健	174-195	演習(AL)
9/29	月	3	保健・医療・介護の資源（成人・老人）	わが国の成人と高齢者における保健・医療の施策、生活習慣病のリスク要因と予防、老人保健・介護保険制度のシステム、保健・医療・介護にかかわる各施設と機能およびその問題点について、小問を提示して双方向的にQ&Aを行う形式で理解を深める。	苅田香苗	2-17, 196-225	演習(AL)
9/29	月	4	保健・医療・福祉の資源（地域・母子）	わが国の地域保健活動の組織と連携、保健所・市町村保健センター・児童相談所等の役割、および母子保健の現状と動向、母子保健制度、関連指標・統計、健やか親子21、少子化対策について、小問を提示して双方向的にQ&Aを行う形式で理解を深める。	苅田香苗	115-140, 174-195	演習(AL)
10/6	月	2	国民医療費、国民栄養（演習）	国民医療費の構造・推移・国際比較、社会保障費の国民負担率と社会支出、食事摂取基準、食事摂取量、過剰摂取と病態、欠乏と病態、について演習と解説を行う。	白土健	99-114, 275-294	演習(AL)
10/6	月	3	環境保健（演習）	地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、水質基準、公害、環境基準、ダイオキシン、廃棄物処理、放射線の健康障害と基準、屋内環境、シックハウス症候群について演習と解説を行う。	木崎節子	352-379	演習
10/8	水	2	社会と医療（演習）	保健・医療・福祉・介護・教育の制度と連携、医学研究と倫理、臨床試験・治験と倫理性について演習問題を交えながら理解を深める。KW＝地域包括支援センター、連携とチーム医療、PT、OT、ST、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、訪問介護員、臨床心理士	吉田正雄	115-140, 202-225	演習(AL)
10/8	水	3	疫学とその応用（演習）	Evidence Based Medicine（EBM）の概要や、疫学指標、研究手法について演習と解説を行う。KW：EBM、バイアス、無作為比較対照試験、コホート研究、症例対照研究、相対危険度、オッズ比	照屋浩司	18-65	演習
10/8	水	4	疫学・保健統計（演習）	スクリーニング検査、コホート研究、症例対照研究、リスクの算出、調整、オッズ比、標準化死亡比、EBM、検査前確率、検査後確率、ROC曲線、人口動態統計、国民生活基礎調査、患者調査、疾病統計、国際疾病分類（ICD10）、合計特殊出生率、総再生産率、純再生産率、粗死亡率、年齢調整死亡率、標準化死亡比（SMR）について演習と解説を行う。	照屋浩司	18-98	演習
10/9	木	2	国際保健	世界の保健・医療問題、国際保健・医療協力について演習と解説を行う。KW＝アルマ・アタ宣言、オワタ憲章、バンコク憲章、アデレート宣言、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ<UHC>、UN、WHO、ILO、WFP、FAO、UNICEF、UNESCO、UNHCR、ODA、JICA、NGO	吉田正雄	167-171	演習(AL)
10/9	木	3	学校保健	学校保健関連法規、学校医と保健管理、学齢期の疾病と学校管理下での死亡の推移と現状について演習と解説を行う。KW＝学校保健安全法、学齢期の好発疾患と予防、学校医の職務、養護教諭、健康診断、学校における感染症の予防、学校における出席停止	吉田正雄	295-305	演習(AL)
10/9	木	4	食中毒・病害動物による疾患・旅行者下痢症	食中毒・病害動物による疾患・旅行者下痢症における症状、治療、予後とその予防対策について演習と解説を行う。KW＝食品衛生法、食中毒統計、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、化学性食中毒、フグ毒、毒キノコ、カビ毒（アフラトキシン）、アニサキス	吉田正雄	275-294	演習(AL)
10/10	金	1	成人・高齢者保健（演習）	生活習慣病のリスク要因、生活習慣病対策、喫煙・飲酒、一次・二次・三次予防、健康診断、健康日本21、ゴールドプラン21、介護保険法、老年人口、認知症性高齢者、ねたきり老人、日常生活動作（ADL）、在宅ケア、施設ケアについて演習と解説を行う。	苅田香苗	2-17, 196-225	演習(AL)

2025年度 6年 講義予定表

【公衆衛生学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/10	金	2	産業保健・中毒（演習）	労働安全衛生法、業務上疾病の発生状況、産業医の資格と職務、健康管理・作業環境管理・作業管理、生物学的モニタリング、許容濃度、労働災害、トータルヘルスプロモーションプラン（THP）、金中毒、有機溶剤中毒、ガス中毒、酸素欠乏症、農薬中毒、職業癌、じん肺、職業性腰痛、頸肩腕障害、騒音性障害、振動障害、減圧症、熱中症、電離放射線障害、紫外線障害、VDT障害について演習と解説を行う。	苅田香苗	306-351	演習(AL)
10/16	木	1	感染症対策（演習）	主要感染症の疫学、感染源・感染経路対策、感染症法、1～5類感染症、指定感染症、検疫感染症、新興・再興感染症、結核、DOTS、予防接種、母子感染症、感染症サーベイランス、院内感染症、標準予防策について演習と解説を行う。	苅田香苗	245-274	演習(AL)
10/16	木	2	前半：統計総復習 後半：試験	前半は疫学・統計の総復習を行う。 後半は試験を実施する（試験範囲は公衆衛生学すべての講義分野とする）。	苅田香苗	前半：18-98	試験

年度	2025年度	学年	6年
学科目	臨床総合演習	科目ナンバリング	FME-5H04
単位	14単位	コマ数	各主題目の頁を参照すること。
科目責任者	柴原純二 教授（教務部長）		
担当教員	各主題目の頁を参照すること。		

A. 教育の基本方針	最終学年を迎え、卒後臨床研修を見据えた総仕上げを行う。
B. 到達目標	医学部での学習の総まとめを行う。特に、臨床研修への橋渡しとなるべく、卒後、医師として臨床現場に第一歩を踏み出すにあたって必要とされる基本的な医学的知識の確実な習得を目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	臨床課題について、医学部で学んだ知識と学習方法を応用して、解決する能力を身につける。
D. 学習内容	各主題目の頁を参照すること。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	各主題目の頁を参照すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	各主題目の頁を参照すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	各主題目の頁を参照すること。
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	各主題目の頁を参照すること。
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	各主題目の頁を参照すること。

J. 講義予定表	
各主題目の頁を参照すること。	

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】呼吸器（呼吸器内科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】5コマ
科目責任者	【主題目】石井晴之　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　石井晴之、皿谷健 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	呼吸器病学についてM6として必要な知識の習得と応用。
B. 到達目標	呼吸器病学において必要な医療倫理、知識、問題解決能力を身につける。 呼吸器病学の系統的理解を整理する。また問診や診察法なども含めた内科診断学の知識や技能を習得して、診断アプローチを行うことができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 呼吸器病学において必要な病態知識（解剖、生理、病理）を習得し、説明することができる。 2. 適切な問診を収集するためのコミュニケーション能力を身につけ、診断アプローチのための鑑別診断を適確に列挙することができる。 3. 基本的な医療倫理を理解し、課題の問題解決能力を習得する。
D. 学習内容	問題解説と演習。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスを読み、教科書に目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	呼吸器診療 ANDS BOOK（中外医学社）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R)朝倉書店：内科学、中山書店：内科学書など (R)新臨床内科学、医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) Fraser: Diagnosis of diseases of the chest ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】呼吸器（呼吸器内科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	水	2	総論	呼吸総論の中で特に注意事項を中心に演習を行う	石田学	呼吸器診療ANDS BOOK p28-99, p102-199	講義
4/2	水	3	拘束性肺疾患	肺線維症・間質性肺炎の病態、肺の実質、間質とは何処かを把握して、その概念を学ぶ。さらに間質性肺炎の分類、主要疾患である特発性間質性肺炎と二次性間質性肺疾患について学ぶ。	石井晴之	呼吸器診療ANDS BOOK p283-293, p302-310, 434-443	講義
4/14	月	4	閉塞性肺疾患（COPD、喘息、など）	慢性閉塞性肺疾患COPDおよび気管支喘息の概念、診断と治療について学ぶ。びまん性汎細気管支炎DPB、気管支拡張症、換気異常などについても概説する。	佐田充	呼吸器診療ANDS BOOK p312-341, p384-392	講義
9/10	水	3	呼吸器感染症	肺炎の成立（浸潤影、気管支透亮像）、細菌性肺炎、非定型肺炎、ニューモシチス肺炎、真菌性肺炎、重症急性呼吸器症候群、肺抗酸菌症として重要な肺結核と非結核性抗酸菌症について呼吸器からみた視点で解説する。	皿谷健	呼吸器診療ANDS BOOK p236-282	講義
10/2	木	1	肺腫瘍	原発性肺癌の臨床症状、組織学的分類（非小細胞肺癌、小細胞肺癌）とそれぞれの特徴、診断、腫瘍随伴症候群、病期診断、治療の選択などについて概説する。	高田佐織	呼吸器診療ANDS BOOK p342-363, p411-423, p454-481	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】呼吸器（呼吸器・甲状腺外科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】橋本浩平　臨床教授		
担当教員	【主題目】 学内講師　須田一晴 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	一般臨床医に求められる各疾患の重要点を整理し、医師として必要な外科の知識を修得する。
B. 到達目標	呼吸器・甲状腺外科学から医師の社会的責任を認識する。呼吸器・甲状腺疾患の主要な症候（症状）から疾患の鑑別診断、画像診断、診断手技について学ぶ。内科的治療を含めて治療法の選択ができること。さらに外科治療の適応、その結果の予測まで述べる事ができる。修得した医学的知識を駆使し、問題解決能力やリサーチマインドコミュニケーション能力を養う。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	①すでに学習・修得した呼吸器・甲状腺領域の知識を活用し、実践できるようにする（医療面接・身体診察から検査計画や治療方針の立案ができる）。 ②呼吸器・甲状腺領域での重要な疾患を理解する。
D. 学習内容	国家試験に問われる知識や臨床研修で必要とされる知識を踏まえて、各種疾患の初診から治療までを系統的に講義する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	呼吸器・甲状腺外科の過去の講義内容を復習し、更に臨床実習で学んだ臨床的な医学的知識を整理しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	呼吸器甲状腺外科の過去の演習問題、試験問題の結果を踏まえ、弱点の補習を中心に行い、効率的な知識の習得を目指す。講義で示された重要事項や既出国家試験問題を繰り返し復習し、学習内容を確実なものとする。所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学 第16版 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】呼吸器（呼吸器・甲状腺外科学）

月日	曜	時限	科目	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/17	木	3	呼吸器・甲状腺外科学 (全般)	原発性肺癌、自然気胸、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、転移性肺腫瘍などの疾患は修得必須である。国家試験の過去問題を参考に、各疾患のポイントを総合的に復習する。	須田一晴	指定なし国家試験過去問集等	講義
10/2	木	3	呼吸器・甲状腺外科学 (全般)	呼吸器・甲状腺外科の過去の演習問題、試験問題の結果を踏まえ、弱点の補習を中心に行う。	須田一晴	指定なし国家試験過去問集等	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】神経（脳神経内科学・脳卒中医学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	【主題目】市川弥生子　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　市川弥生子、平野照之 医　員　上月直樹 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	神経系の構造・機能についての基本知識を整理・確認し、その上で神経疾患の病態・治療について理解する。 国家試験問題の演習を通して重要項目を復習し、臨床研修に必要な水準の能力を修得する
B. 到達目標	脳・神経系に関して、臨床研修に必要な水準の能力を修得する。 脳・神経系の構造と機能を理解し、病歴および神経所見から鑑別診断を考え、問題解決ができる能力を身につける。病態生理、画像所見について適確に説明でき、主要神経疾患の治療法を説明できる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑩, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1) 神経系の正常の構造と機能を説明出来る。 2) 主要疾患の病態生理と自然歴を説明出来る。 3) 薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を説明出来る。 4) 主要疾患の治療法を説明出来る。 5) 病歴と神経所見から鑑別診断を考え、神経学的論理によって問題解決が出来る。
D. 学習内容	臨床研修で求められる能力を念頭に置いた演習を通して主要疾患の重要事項の復習をおこなう。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、対象となっている分野について教科書やM 3 脳神経内科学・脳卒中医学講義プリントを復習しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および参考書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	講義プリント
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R)病気がみえる vol.7脳・神経 医療情報科学研究所 最新版 (R)神田隆 医学生・研修医のための神経内科学 中外医学社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)田崎義昭 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 (A)水野美邦 神経内科ハンドブック 第5版 医学書院 (A)豊田一則 脳梗塞診療読本 第3版 中外医学社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】神経（脳神経内科学・脳卒中医学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/15	火	2	脳血管障害	重要事項の復習：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、もやもや病、アミロイドアンギオパチー、頸動脈狭窄症、高血圧性脳症、など	平野照之	プリント配布	講義
4/15	火	3	変性,代謝・中毒, 感染,脱髄,炎症	重要事項の復習：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、ウィルソン病、ウェルニッケ脳症、CO中毒、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症など	市川弥生子	プリント配布	講義
4/15	火	4	末梢神経・神経筋接合部・筋疾患, 脊髄疾患	重要事項の復習：筋ジストロフィー、周期性四肢麻痺、遺伝性運動感覚性ニューロパチー、家族性アミロイドニューロパチー、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、脊髄空洞症、機能性頭痛など	市川弥生子	プリント配布	講義
9/3	水	3	神経領域の総合演習	国試過去問の分析から抽出された神経領域の重要ポイントを中心に解説を行う。	上月直樹	プリント配布	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】神経（脳神経外科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】3コマ
科目責任者	【主題目】田中洋次　教授		
担当教員	【主題目】 特任教授　永根基雄 准教授　　丸山啓介 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	M 4 ～M 5 で学んだことを前提に、脳神経外科学における各種疾患の病態・治療について再確認するように講義する。
B. 到達目標	医師として脳神経外科学的疾患への適切な対応が可能な能力を身につける。同時に医師としてふさわしい価値観、倫理、態度や臨床技能と問題解決能力を養う。 M 4 臨床医学講義とBSLで習得した知識を復習し、合わせて問題演習を行なう。学習した事項を整理し、正確に理解出来ている事を確認する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 脳神経外科学的疾患を正しく整理、理解し、その概略を説明できる。 2. 脳神経外科学総論・各論の概略を説明できる。 3. 脳神経外科の外科的処置の適応判断・基本的なリスク評価ができる。
D. 学習内容	講義予定表に示した通り
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	講義テーマ、講義内容を読み、教科書、参考書、及び、M 4 臨床医学講義で学習した資料、M 5 BSLで作成したレポートなどを予め復習しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して、関連事項も復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準脳神経外科学（第16版） 医学書院（教科書）
②参考書 A（学生の所持をすすめるもの）	(A)脳神経外科学（第13版） 金芳堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書 B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)脳神経外科臨床マニュアル 第5版 丸善出版 (A)グリーンバーク 脳神経外科ハンドブック 第6版 金芳堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】神経（脳神経外科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/8	火	4	脳神経外科総論・脳血管障害・頭部外傷ほか	脳神経外科総論を復習し、総論、脳血管障害および頭部外傷についての病態・治療について再確認するように講義する。臨床医学講義とBSLで習得した知識を正しく整理、理解する。	丸山啓介	160-203	講義
4/22	火	2	脳腫瘍総論・各論	脳神経外科総論を復習し、脳腫瘍についての病態・治療について再確認するように講義する。臨床医学講義とBSLで習得した知識を正しく整理、理解する。	永根基雄	2-159、204-323	講義
10/23	木	3	脳神経外科学全般	過去の試験問題（過去5～10年分）の中から標準的問題を抽出し、一問一答形式での問題演習を行なう。	丸山啓介	2-323	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】腎臓病学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	駒形 嘉紀 教授		
担当教員	准教授 川上 貴久 講師 鮎澤 信宏 学内講師 池谷 紀子 腎臓・リウマチ膠原病内科学教室が担当する。 医学部付属病院において医師として勤務する教員が講義・実習を担当しており、実践的かつ最新の知見に基づく医学の教育を受けることができる。		

A．教育の基本方針	医師・医学研究者として必要な本領域の医学知識と技能を備え、かつ、医の倫理の意識と社会的使命の自覚をもった医師を育成する。
B．到達目標	医師として実践が可能となるレベルの充分な腎臓内科学の知識・技能を修得する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1．腎生理を理解し、水・電解質・酸塩基異常、高血圧性疾患に関する基本的な臨床的課題を解決できる。 2．各種腎疾患の病態生理、症候、検査所見、診断法、治療法を理解し、基本的な臨床的課題を解決できる。 3．急性腎障害<AKI>と慢性腎臓病<CKD>の概念、症候、検査所見、診断法、治療法（腎代替療法を含む）を理解し、基本的な臨床的課題を解決できる。
D．学習内容	講義形式で学習する。各講義の内容は講義予定表を参照のこと。 アクティブ・ラーニングの実施法：講義の中で質疑応答を行う。
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	講義テーマ・講義内容を確認し、教科書や参考書、過去の講義の資料などで学習し、必要に応じて文献検索等により関連事項についても調べておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義スライドや教科書の該当ページが理解できるまで復習すること。 興味を持った分野については、参考書などでさらに理解を深めるとよい。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	新臨床内科学 第10版 矢崎義雄監修 医学書院 （2020年）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	下記の「参考書B」に挙げた本で気に入ったもの、面白そうなものがあったら所持して下さい。
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	・病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 第3版 メディックメディア （2019年） <内科学> ・内科学 第12版 矢崎 義雄 他 総編集 朝倉書店（2022年） 日本語の内科学の教科書で最も定番のもの ・内科学書 改訂第9版 南学 正臣 総編集 中山書店（2019年） 日本語の内科学の教科書で定番のもの ・Harrison's Principles of Internal Medicine, 21st ed., MCGRAW-HILL EDUCATION （2022年） 英語の内科学の教科書で最も定番のもの（和訳はかなり古い版なのでお薦めしない） <腎臓内科学> ・Comprehensive Clinical Nephrology, 7th ed. R.J.Johnson et al. ELSEVIER （2024年） 英語の腎臓病学の教科書で人気のもの ・Brenner & Rector's the Kidney, 11th ed. A.S.L.Yu et al. ELSEVIER （2020年） 英語の腎臓病学の教科書で最も定番のもの <水・電解質・酸塩基平衡> ・水・電解質と酸塩基平衡：step by stepで考える 黒川 清 著 南江堂（2004年） 薄くて読みやすいが、内容は薄い ・より理解を深める！ 体液電解質異常と輸液 改訂3版 柴垣 有吾 著 中外医学者（2007年） 評判の良い電解質の本 <腎病理>

- ・なぜパターン認識だけで腎病理は読めないのか？ 長田 道夫、門川 俊明 著（2017年）
腎病理医と腎臓内科医の対話形式で読みやすく、異常が起こる機序が分かる
- ・非腫瘍性疾患病理アトラス 腎 大橋 健一 他 編 文光堂（2022年）
包括的な腎病理アトラスで最新のもの
- ・腎生検病理アトラス改訂版 日本腎病理協会・日本腎臓学会編 東京医学社 （2017年）
包括的な腎病理アトラス。少しだけ古いが、上記より写真が大きい。

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】腎臓病学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	4	腎臓内科1 主要症候、腎機能検査、水・電解質・酸塩基・尿細管機能異常、高血圧・腎循環障害	腎臓に関わる主要症候と腎機能検査について確認し、様々な電解質・酸塩基平衡の異常や、Bartter症候群・Gitelman症候群などの尿細管機能異常、そして高血圧・腎循環障害についての病態、鑑別診断、治療法を解説する。	鮎澤 信宏	1130-51, 1195-1202, 1231-35, 407-418	講義
4/8	火	2	腎臓内科2 尿検査、一次性・二次性腎疾患、尿細管間質疾患	尿検査による腎疾患の評価法について確認した上で、一次性糸球体疾患（IgA腎症、膜性腎症など）、二次性糸球体疾患（糖尿病性腎症、膠原病・血管炎に伴う腎疾患など）、尿細管間質性腎炎などの尿細管間質疾患について、その病態、臨床的特徴、病理所見、治療法を解説する。	川上 貴久	1125-30, 1177-95, 1202-26, 1228-31, 1255-65	講義
4/14	月	1	腎臓内科3 急性腎障害<AKI>、慢性腎臓病<CKD>・慢性腎不全、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）	急性腎障害<AKI>（腎前性、腎性、腎後性）の鑑別診断と治療法、そして慢性腎臓病<CKD>の分類や進行の機序、治療、慢性腎不全の合併症について学び、さらに腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）についても解説する。	池谷 紀子	1151-77	講義
9/9	火	4	腎臓内科4	腎臓内科の全分野について国家試験の過去問の中から重要なものをピックアップし、その周辺知識も含めて解説する。その解説の中で適宜質問に答えてもらう予定である。	川上貴久	1118-1226, 1228-35, 1255-65, 407-415, 745-748	講義(AL)

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】免疫・アレルギー病学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	【主題目】駒形嘉紀 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 駒形嘉紀 准教授 岸本暢将 学内講師 川嶋聡子 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	免疫・アレルギー、リウマチ性疾患について病態を正確に把握し、それに基づいた臨床診断、治療を修得することを目的とする。
B. 到達目標	免疫・アレルギー、リウマチ性疾患について復習し、総論・各論の要点を理解できていることを確認し、あわせて演習を行なう。これまで学習した事項を整理し、正確に理解できるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. リウマチ膠原病、アレルギー各疾患の症候と検査法（特異的自己抗体を含む）を理解し、基本的な臨床的課題を解決できる。 2. リウマチ膠原病、アレルギー各疾患の診断と治療法を理解し、基本的な臨床的課題を解決できる。
D. 学習内容	講義形式で学習する。各講義の内容は講義予定表を参照のこと。 アクティブ・ラーニングの実施法：講義の中で質疑応答を行う。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義内容」を読み、教科書や参考書、過去の臨床医学講義の資料、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得るなどして、予備知識や疑問をもった上で、授業に臨むこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 新臨床内科学 第10版 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 膠原病診療ノート第4版（三森明夫著、日本医事新報社） ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】免疫・アレルギー病学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	水	4	膠原病1	血管炎症候群の病因、疫学、臨床所見、診断、治療などについての重要ポイント、各種アレルギーの反応型、代表的な先天的・後天的免疫異常疾患の特徴や重要ポイントを中心に解説する。	川嶋聡子	13章p.1770-1782, 1792-1793, 1805-1821	講義
4/10	木	2	膠原病2	関節リウマチ、強直性脊椎炎、変形性関節症、ベーチェット病、痛風・偽痛風などリウマチ性疾患、自己炎症性疾患の病因、疫学、臨床所見、診断、治療などについて重要ポイントを中心に解説する。	駒形嘉紀	13章p.1745-1750, 1782-1792, 1793-1798, 1821-1828	講義
4/21	月	1	膠原病3	膠原病の症状、治療を中心に総論の解説をする。さらに、SLE、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、成人スティル病などその他のリウマチ類縁疾患の病因、疫学、臨床所見、診断、治療などについて重要ポイントを中心に解説する。	岸本暢将	13章p.1740-1744, 1751-1760, 1762-1769, 1798-1804	講義
10/2	木	2	膠原病 1	免疫・アレルギー病学の全分野について国家試験の過去問の中から重要なものをピックアップし、その周辺知識も含めて解説する。その解説の中で適宜質問に答えてもらう予定である。	駒形嘉紀	13章p.1740-1744, 1751-1760, 1762-1769, 1798-1804	講義(AL)

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】循環器（循環器内科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】6コマ
科目責任者	【主題目】副島京子 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 副島京子、村田光繁、河野隆志 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	医師として必要な循環器病学の知識を修得する。
B．到達目標	医師としてふさわしい価値観、倫理、医学的知識、臨床技能と問題解決能力、情報処理能力、批判的思考力を獲得する。循環器系疾患の病態・診断・治療についての総合的理解を身につける。 【杏林大学医学部学生への到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	①循環器の正常構造と機能を、正しく理解できる。 ②主要な循環器系疾患の病態生理や原因、症候について、正しく理解し説明できる。 ③主要な循環器系疾患の診断に必要な検査法と、その評価や鑑別診断について、正しく理解し説明できる。 ④主要な循環器系疾患の治療法について、正しく理解し説明できる。
D．学習内容	過去の試験問題の解説が中心である。そのなかで、臨床実地に即した循環器系疾患の解説、診断法および治療法を最新のトピックスも含めて解説する。循環器系疾患の画像診断を重点項目とする。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前に履修案内・授業内容（シラバス）の「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	1．指定教科書（学生が所持しなければならないもの） 新臨床内科学 医学書院 最新版 2．教科書 内科学 朝倉書店 最新版
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	病気がみえるvol2循環器 医療情報科学研究所 最新版 新領域別症候群シリーズ「循環器症候群」日本臨床 新心臓病診療プラクティス1～18 文光堂 鈴木利光他監訳 ルービン病理学 西村書店 最新版 村川裕二訳 図解心電図テキスト 原書第6版（Dale Dubin著）文光堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	Kasper DL, 他編 Harrison's Principles of Internal Medicine McGrow Hill Hurst編 The Heart McGrow Hill Braunwald編 Heart Disease Saunder ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】循環器（循環器内科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	1	不整脈	不整脈について総論および各論について臨床演習を念頭に総括的にまとめる。	副島京子	資料配付	講義
4/9	水	4	心不全・ショック	心不全・ショックについて総論および各論を臨床演習を中心に総括的・包括的にまとめ、講義する。	河野隆志	資料配付	講義
4/17	木	2	心筋疾患・弁膜症	心筋疾患・弁膜症について総論および各論を臨床症例を中心に総括的・包括的にまとめ、講義する。	南島俊徳	資料配付	講義
4/21	月	3	虚血性心疾患・高血圧・動脈硬化・大動脈疾患	虚血性心疾患・高血圧・動脈硬化・大動脈疾患について総論および各論を臨床演習を念頭に総括的・包括的にまとめる。	小山幸平	資料配付	講義
9/16	火	3	心内膜炎・心外膜炎・心筋炎・腫瘍	心内膜炎・心外膜炎・心筋炎・腫瘍について総論的かつ総合的に臨床演習を念頭に総括する。	村田光繁	資料配付	講義
9/16	火	4	成人先天性心疾患・肺塞栓・肺高血圧	成人先天性心疾患・肺塞栓・肺高血圧について総論および各論を臨床症例を念頭に総括的・包括的に述べる。	伊波巧	資料配付	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】循環器（心臓血管外科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】窪田博 教授		
担当教員	【主題目】 准教授 峯岸祥人、伊佐治寿彦 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	心臓血管外科学における各疾患の病態、診断方法を学び、外科治療の適応基準、手術方法を理解させることを指導する。
B. 到達目標	卒後の臨床医としての基礎となる知識の修得を目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	心臓血管外科学の総論および各論を学び、医師として必要な基本的知識を修得する。 (1) 循環を担う臓器の正常解剖および、その機能を理解する。 (2) 主要疾患の病態生理、自然歴および治療法を理解する。 (3) 自主的に学び続ける姿勢を身につける。
D. 学習内容	総論、各論の集中講義を行う。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	教科書および参考書にて講義内容の予習をする。過去の試験問題の中で関連する問題を予習し、また、M4における講義内容を復習整理すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義での配布資料と関連分野の教科書を用いた復習。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準的な教科書
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 心臓外科 医学書院 (R) 病気がみえる vol. 2. 循環器 医療情報科学研究所 (A) 新 心臓血管外科テキスト 中外医学社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)Kirklin/Barratt-Boyes: Cardiac Surgery (4th Edition) Churchill Livingstone (A)Jack L. Cronenwett/K. Wayne Johnston: Rutherford's Vascular Surgery (10th Edition) Saunders (R)循環器病ガイドラインシリーズ（日本循環器学会 ホームページ） https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/ ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】循環器（心臓血管外科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	月	4	血管外科・心臓外科	腹部大動脈疾患、末梢動脈疾患および静脈疾患等の診断、手術適応および外科治療について解説を行う。 虚血性心疾患、胸部大動脈疾患、後天性弁膜症、先天性心疾患の診断、手術適応および外科治療について解説を行う。	峯岸祥人、伊佐治寿彦		講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】血液病学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】6コマ
科目責任者	【主題目】荒井俊也 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 荒井俊也 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	血液疾患は、赤血球系疾患、主に腫瘍性疾患から成る白血球系疾患、血栓止血系疾患から成る。正常血液細胞の機能を正しく理解し、およびそれが破綻した際に起こりうる様々な血液疾患の診断法、病態生理、治療法について、幅広い知識を身につける。
B．到達目標	血液疾患を正しく理解するに当たり、まず、正常の血液細胞の機能、一般的に行われる血液関連の検査法について十分な知識を習得する。次いで、赤血球系疾患、白血球系疾患、血栓止血系疾患のそれぞれについて、その病態生理、正しい診断法、標準的治療法、予後について学び、実際に患者に遭遇した際に、正しい判断ができる技術、能力を習得する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1. 正常の血液細胞の形態と機能を説明できる。 2. 血液データの異常値や、血液像、骨髓像、リンパ節の病理像などから、血液疾患を正しく診断できる。 3. 各血液疾患に対する適切な治療法、予想される合併症、期待される予後について説明できる。
D．学習内容	臨床実地に即した血液疾患各論、検査法、治療法を、最新のトピックスも含めて要点整理する。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。特にM3で使用した講義プリントは必ず復習しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	新臨床内科学 医学書院（最新版）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 神田善伸著：血液病レジデントマニュアル 第4版 医学書院 (A) 鈴木 隆浩・竹中 克斗・池添 隆之編：専門医のための血液病学 医学書院 (A) 木崎昌弘・田丸淳一編：WHO分類第5版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 中外医学社 (A) 朝倉英策編：臨床に直結する血栓止血学 改訂3版 中外医学社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 日本血液学会編：造血器腫瘍診療ガイドライン 金原出版 (R) 遠山薫・張替秀郎編：血液細胞アトラス 文光堂 (R) 中村栄男他編：リンパ腫アトラス 文光堂 (A) 日本臨牀, 78巻増刊号3：造血器腫瘍学（第2版）－基礎と臨床の最新研究動向－ 日本臨牀社 (A) 日本臨牀, 81巻増刊号3：新リンパ腫学 ー基礎・臨床の最新動向ー 日本臨牀社 (A) 金倉讓監修：EBM血液疾患の治療 中外医学社 (A) K.Kaushansky, M.A.Lichtman, J.T.Prchal他編：Williams Hematology. MCGRAW-HILL (A) R.T.Means,Jr, G.M.Rodgers, B.Glader他編：Wintrobe's Clinical Hematology. WOLTERS KLUWER (A) WHO Classification of Tumours Editorial Board編：Haematolymphoid Tumours: WHO Classification of Tumours, 5th ed. WORLD HEALTH ORGANIZATION いずれも最新版。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】血液病学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	水	1	造血の基礎・ 赤血球疾患 (1)	造血幹細胞・正常の血液細胞の形態と機能・鉄代謝・貧血総論・血液患者の診察・鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血	荒井俊也	9 6 4 - 9 7 8	講義
4/4	金	2	赤血球疾患(2)・ 白血球疾患(1)	遺伝性球状赤血球症・自己免疫性溶血性貧血・発作性夜間血色素尿症・サラセミア・鉄芽球性貧血・再生不良性貧血・赤芽球癆・骨髓異形成症候群・赤血球増加症・骨髓線維症	荒井俊也	9 6 4 - 1 0 1 4	講義
4/11	金	2	白血球疾患(2)	急性白血病・急性前骨髓球性白血病・慢性骨髓性白血病・Hodgkinリンパ腫・濾胞性リンパ腫・びまん性大細胞型リンパ腫・リツキシマブ・M蛋白・多発性骨髓腫・造血幹細胞移植	荒井俊也	1 0 5 5 - 1 1 1 6	講義
4/22	火	4	止血・血栓の疾患	血小板の機能・血液凝固の機序・止血機能の検査・von Willebrand病・血友病・特発性血小板減少性紫斑病・アレルギー性紫斑病・抗凝固薬・抗血小板薬	荒井俊也	1 0 1 4 - 1 0 5 5	講義
9/17	水	1	造血の基礎・ 赤血球疾患	造血幹細胞・鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血・遺伝性球状赤血球症・自己免疫性溶血性貧血・発作性夜間血色素尿症・サラセミア・再生不良性貧血・赤芽球癆・骨髓異形成症候群・赤血球増加症・骨髓線維症	荒井俊也	9 6 4 - 1 1 1 6	講義
10/15	水	2	白血球疾患・ 止血血栓の疾患	急性前骨髓球性白血病・慢性骨髓性白血病・Hodgkinリンパ腫・濾胞性リンパ腫・リツキシマブ・M蛋白・多発性骨髓腫・止血機能の検査・von Willebrand病・血友病・特発性血小板減少性紫斑病・アレルギー性紫斑病・抗凝固薬・抗血小板薬	荒井俊也	9 6 4 - 1 1 1 6	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】内分泌・代謝病学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】6コマ
科目責任者	【主題目】安田和基 教授		
担当教員	【主題目】 教授 安田和基（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 講師 田中利明（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 非常勤講師 近藤琢磨（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 村嶋俊隆（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 石本麻衣（糖尿病・内分泌・代謝内科学） その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	5年生までに修得した病態や疾患に関する知識や臨床的解決能力をもとに、糖尿病を含めた内分泌・代謝疾患の鑑別診断、適切な治療法の選択について、得られた情報から正しい科学的思考をもとに対応する能力を身につける。
B. 到達目標	臨床実習において、診療チームの一員として学んだ経験を基に、学生に求められる問題解決能力を発揮する。具体的には、内分泌・代謝の生理学的な知識と疾患についての医学的知識を動員して、病歴や主要徴候から鑑別診断を挙げた上で、診断に導くために必要な科学的推論を実践し、臨床における基礎を身につける。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	Ⅰ. 糖尿病・内分泌・代謝領域における医学的知識の習得について 1. 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵内分泌組織などの主要な内分泌器官の正常の構造と機能を理解する。 2. 主要な内分泌器官の炎症性、腫瘍性、自己免疫性、遺伝性疾患の発生メカニズム、診断方法、治療法を理解する。 3. 糖尿病の発症メカニズム、診断基準、合併症の特徴、食事・運動などの治療法の原則、ならびに薬物療法の原則と個々の薬物の作用・副作用を理解する。 4. メタボリック症候群など肥満に関連する疾患やその他の代謝性疾患の発症メカニズム、診断方法・治療法を理解する。 Ⅱ. 糖尿病・内分泌・代謝領域における臨床技能と問題解決能力について 1. 患者、家族、同僚、他職種の人たちと良好な人間関係を築くために修得した基本的なコミュニケーション能力をもとに、病歴等の情報から疾患特有な病態や疾患を抽出できる。 2. 顔貌などの身体的特徴を観察し、甲状腺など適切な身体診察を行い、内分泌・代謝疾患特有な病態や症状を抽出できる。 3. 各種ホルモン負荷試験・ブドウ糖負荷試験などの検査方法や注意点を実施できる程度に理解し、結果の分析・解釈が適切に行える。 4. エコー、CT、MRI、シンチグラムなどの画像所見を読影し、視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎といった臓器の病変を的確に抽出できる。 5. 糖尿病患者に対する食事療法・運動療法を十分に理解し、多職種による糖尿病の療養指導を実践するための基礎知識を修得している。 6. 医師としての社会的責任を理解するとともに、修得した医学知識を活用し科学的な思考・分析に基づいて的確に判断し、問題解決を図ることができる。
D. 学習内容	講義予定表中の学習内容について、主としてスライドを用いて講義する。学年前半では、各領域のポイントをおさらいし、後半では、国家試験問題にむけた対策も取り上げて論理的に解説する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	シラバスのなかの「講義テーマ」の領域の教科書や参考書、系統講義の資料、さらには必要に応じて関連文献などを予め検索し、知識を十分に復習しておく。所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で使用されたスライドや問題の解答・解説、および教科書の関連ページ、必要に応じて関連国試問題などを熟読して復習すること。領域が広く講義でカバーしきれない内容もあることから、復習に十分時間をとることを推奨する。所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

Ⅰ. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	矢崎義雄監修 新臨床内科学（第10版） 医学書院
②参考書 A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 杉本恒明、矢崎義雄総編集 内科学（第11版） 朝倉書店 (R) 門脇 孝、永井良三総編集 カラー版内科学 西村書店 (A) 福井次矢、黒川 清監修 ハリソン内科学（第5版） メディカル・サイエンス・インターナショナル (A) 日本糖尿病学会 編集 糖尿病治療ガイド2024 文光堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 日本内分泌学会・日本糖尿病学会 編集 内分泌代謝・糖尿病内科専門医研修ガイドブック 診断と治療社 (A) Kasper D, Fauci A, et al (editors). Harrison's Principles of Internal Medicine 第19版 McGraw-Hill 2015 (A) DeFronzo RA, Ferrannini E, et al (editors). International Textbook of Diabetes Mellitus 第4版 Wiley-Blackwell 2015 (A) Melmed S, Auchus RJ, Goldfine AB, et al.(editors). Williams Textbook of Endocrinology 第14版 Elsevier 2020 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
------------------------	--

J．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】内分泌・代謝病学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/7	月	1	糖尿病	糖尿病の診断基準とその分類について、さらに糖尿病の急性合併症（昏睡・意識障害）ならびに慢性合併症、そして糖尿病の治療に関する知識、低血糖症の診断とその鑑別、メタボリック症候群など肥満に関連する事項について整理する。	近藤琢磨	「新臨床内科学」713-793	講義
4/7	月	2	視床下部・下垂体疾患	内分泌の総論と視床下部・下垂体の構造と機能。先端巨大症、高プロラクチン血症、TSH産生下垂体腺腫、下垂体前葉機能低下症、尿崩症、ADH分泌過剰症に関して知識の整理を行う。	田中利明	「新臨床内科学」841-876	講義
4/8	火	1	甲状腺・副甲状腺疾患	①代表的な甲状腺疾患②C a ・ P 代謝および調節ホルモンと関連疾患③多発性内分泌腺腫瘍症のそれぞれについて病態を整理する。	村嶋俊隆	「新臨床内科学」877-911	講義
4/8	火	3	副腎疾患	副腎皮質、髄質の代表的な疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、アジソン病、褐色細胞腫など）の臨床症状、検査所見、および治療について知識を整理する。	近藤琢磨	「新臨床内科学」912-934	講義
9/5	金	3	内分泌疾患	内分泌全般にわたり、ホルモン分泌の制御機構とその異常、診断に関わる症候・検査や診断基準、治療法などを整理し、具体的な国家試験の問題についても解説する。	石本麻衣	「新臨床内科学」841-934	講義
10/16	木	3	糖尿病	糖尿病の診断基準とその分類、糖尿病に関する検査、肥満症やメタボリックシンドローム、糖尿病の急性・慢性合併症、食事療法・運動療法・薬物療法などについて基本的な知識を整理するとともに、国家試験の既出問題について解説する。	安田和基	「新臨床内科学」713-793	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】消化管・肝・胆・膵（消化器内科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】7コマ
科目責任者	【主題目】久松理一 教授		
担当教員	【主題目】 教授 久松理一 臨床教授 松浦稔 准教授 土岐真朗、三好 潤 講 師 川村直弘、林田真理、大野亜希子 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	消化器系疾患の診断、鑑別診断、適切な治療法の選択の思考過程を理解する。
B. 到達目標	卒業後の臨床研修に必要な十分な消化器内科学の知識を習得する。消化器系疾患の病態を理解し、論理的思考で診断や治療を行うことができる臨床医となるために、必須な基礎的知識とその活用法を習得する。 1. 消化器系の解剖と機能を、正しく理解し説明できる。 2. 主要な消化器系疾患の病態生理や原因、症候について、正確に述べることができる。 3. 消化器系疾患の診断に必要な主要な検査法とその結果の評価、鑑別診断について論理的思考に基づいて正確に述べることができる。 4. 主要な消化器系疾患の治療法について、正しく理解し説明できる。 【吉林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 消化器系の解剖、機能を正しく理解し説明できる。 2. 消化器系疾患の原因、病態生理、症候について理解し説明できる。 3. 消化器系疾患の鑑別診断をあげることができる。 4. 消化器系疾患の診断に必要な検査法を論理的に説明できる。 5. 主要な消化器系疾患の治療方針について論理的に説明できる。
D. 学習内容	1. 主としてPCプレゼンテーションにより講義する。社会的状況を鑑みて対面およびITを用いた遠隔授業を行う。 2. 国家試験問題を正答するために必要な知識のみならず、卒業後の臨床研修に必要な十分な知識を講義する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	シラバスのなかの「講義テーマ」や「講義内容」を事前に読み、教科書や参考書、さらには必要に応じて関連文献などを予め検索し、関連事項についての情報を十分に得たうえで講義に臨む。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	教科書や講義で配布されたプリント等の該当部分を読み、各疾患の病態、診断法、治療法について論理的に理解し、説明できるようになること。また講義で話さきれない項目についても自己学習を行うこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	矢崎義雄 監修 新臨床内科学 第10版 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 矢崎義雄 総編集 内科学 第12版 朝倉書店 (A) 石橋賢一 Navigate 消化器疾患 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 小俣政男, 千葉勉監修 専門医のための消化器病学 第2版 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】消化管、肝・胆・膵（消化器内科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	4	【肝・胆・膵】肝疾患の診断と治療	肝疾患の診断、治療につきポイントを絞って解説する。	川村直弘	613-639, 643-655（新臨床内科学）	講義
4/9	水	1	【消化管】IBD、CDI、腸結核	炎症性腸疾患、CD腸炎、腸結核の病態と診断、治療についてポイントを絞って解説する。	松浦稔	531-539（新臨床内科学）	講義
4/10	木	4	【肝・胆・膵】胆道疾患の診断と治療	胆石症、胆道感染症、胆道系悪性腫瘍の診断と治療について解説する。	土岐真朗	670-686（新臨床内科学）	講義
4/11	金	1	【消化管】食道・胃疾患の診断と治療	食道・胃疾患の主要疾患の診断と治療について画像を中心にポイントを絞って解説する。	大野亜希子	472-516（新臨床内科学）	講義
4/17	木	4	【肝・胆・膵】膵疾患の診断と治療	急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵嚢胞性腫瘍、膵悪性腫瘍の診断と治療について解説する。	土岐真朗	688-712（新臨床内科学）	講義
4/21	月	2	【消化管】感染性腸炎、結腸憩室、虚血性腸炎、小腸疾患	感染性腸炎、結腸憩室疾患、虚血性腸炎、小腸疾患についてポイントを絞って解説する。	林田真理	520-527, 539-542, 544-554, 573 575（新臨床内科学）	講義
9/25	木	4	【消化管】消化管の診断と治療	主要な消化管疾患の国家試験問題につきポイントを絞って解説する。	三好潤	なし	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】消化管・肝・胆・膵（消化器・一般外科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	【主題目】 阪本良弘　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　阪本良弘、阿部展次、須並英二 臨床教授　鈴木裕 講　師　竹内弘久、吉敷智和、大木亜津子 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	消化管・肝胆膵疾患について病態・症候、診断を理解したうえで、外科治療の知識を深める。
B. 到達目標	1. 消化器外科疾患の病態・診断・治療を学ぶ。 2. 医療全体からみた消化器外科治療の役割・意義を学習する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 消化器領域における正常の解剖構造と機能を理解する。 2. 消化器領域疾患の病態生理と自然史を理解する。 3. 消化器領域疾患の身体診察法や診断法、治療法を理解する。 4. 消化器領域疾患の外科治療の適応を説明できる。 5. 消化器領域疾患の薬物治療の適応を理解する。 6. 外科的侵襲に対する生体の反応について説明できる。 7. 手術前後の患者管理について説明できる。 8. 外科医療に求められる倫理と法的責任を認識する。 9. 安全な外科医療を行うための知識を習得する。
D. 学習内容	1) 逆流性食道炎、アカラシアの診断・治療について説明できる。 2) 食道癌外科治療における周術期管理や治療法に関して説明できる。 3) 胃潰瘍の外科的治療の適応を説明できる。 4) 胃腫瘍の診断や治療につき説明できる。 5) 結直腸の良性疾患（炎症性腸疾患など）について説明できる。 6) 結直腸癌の診断・病期・治療法の選択につき説明できる。 7) 肝癌（原発性、転移性）の診断・治療について説明できる。 8) 膵腫瘍（膵癌や嚢胞性膵腫瘍）の診断・治療について説明できる。 9) 胆道癌（胆管、胆嚢、乳頭部）の診断・治療について説明できる。 10) 胆石症や胆管炎の診断と治療について説明できる。 11) 急性・慢性膵炎の外科治療について説明できる。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	外科学の過去の講義内容や国家試験の過去問題を復習し、教科書・参考書、必要に応じて文献検索などにより、関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや、国家試験過去問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学第15版（医学書院）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	特になし
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	特になし

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】消化管、肝・胆・膵（消化器・一般外科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/14	月	3	【消化管】食道、胃疾患	食道・胃の良性・悪性疾患に対する治療法の選択を述べ、これらの外科治療について解説する。	阿部展次	資料配布	講義
4/16	水	3	【消化管】下部消化管疾患	大腸肛門疾患の病態・診断を述べ、これらの外科的治療について解説する。	須並英二	資料配布	講義
4/16	水	4	【肝・胆・膵】肝胆膵疾患の診断と治療	肝癌・膵腫瘍・胆道癌・胆管炎・膵炎の外科治療について解説する。	阪本良弘	資料配布	講義
10/21	火	3	【消化管】	上部消化管・下部消化管の外科の問題演習	竹内弘久	資料配布	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】感染症 （臨床感染症学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	【主題目】倉井大輔　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　倉井大輔 助　教　嶋崎鉄兵 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務）する教員が講義を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	感染症診療・感染制御が行える医師を育成する。感染症診療は、感染臓器と微生物を意識した診断・治療法を学習し、臨床医に求められる感染症診療・治療の考え方を学び、整理する。また、感染対策は、実習生を含むすべての医療従事者が理解すべきであり、臨床現場で患者及び医療従事者の安全を守る感染対策が行えるようにする。
B. 到達目標	今まで修得した感染症診療・感染制御に対する知識を整理し、他の臨床医学の分野の知識を総合し、臨床的な問題を解決できる能力を身につける。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑩, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 診断：代表的な感染症の症状・診断方法を理解し、説明できる。 2. 治療：代表的な抗微生物薬の使用法や外科的な治療法を理解し、説明できる。 3. 感染制御：基本的な院内感染対策と一般的な予防接種を理解し、説明できる。 4. 市中感染と医療感染関連の違い、免疫不全患者の感染症を理解し、説明できる。
D. 学習内容	感染症診療や感染対策について、医師として標準的な対応ができるように領域横断的な内容を講義する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	講義資料がある場合には、事前に目を通す。領域を横断する講義内容であり、事前学習は必須ではない。確認する場合には、M4の感染症総論の講義資料を確認する事。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義内容について、講義資料や参考書による確認作業を行う。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 (R) 東京都感染症マニュアル2018 (http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kansen/kansen-manual_2018.html) よりダウンロード可能 (A) ハリソン内科学 第5版 福井次矢(監修), 黒川 清(監修) ※(R): Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A): Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版 青木眞 (A) Mandell, Douglas, & Bennett's Principles & Practice of Infectious Diseases, 9th ed., in 2 vol (A) Mayhall's Hospital Epidemiology and Infection Prevention David Weber (著), Tom Talbot (著) ※(R): Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A): Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】感染症（臨床感染症学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	2	院内感染対策	標準予防策と経路別予防策を確認する。また、職業感染予防のための対策（ワクチン接種や血液体液曝露後の対応）や手術部位感染とその予防を説明する。	倉井大輔	なし	講義
4/4	金	3	ウイルス性発疹症	皮疹を伴う発熱患者へのアプローチと、代表的なウイルス性発疹症（麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、手足口病など）に関して概説する。	嶋崎鉄兵	なし	講義
4/15	火	1	HIV/免疫不全症/性感染症	免疫不全・性感染症を疑う患者の診断、治療方法を概説する。特に、HIVに関してはその代表的な日和見疾患についての説明を行う。また、市中感染と医療関連感染に関して説明も行う。	倉井大輔	なし	講義
9/4	木	2	感染症全般	R6年版の国家試験で感染症領域で変更になったことの説明	倉井大輔	なし	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】感染症 (感染症学)	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】三戸部治郎 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 三戸部治郎 (感染症学)		

A．教育の基本方針	感染症学および微生物学領域における、卒業後の臨床研修に必要十分な医学知識の習得とその応用力を高めることを目指す。
B．到達目標	微生物の分類、性状、病原性などに関する基礎的知識を整理するとともに、感染症の診断、病態、治療および予防を理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1.微生物の性状を理解したうえで、感染症発症に働く機構を説明できる。 2.各種病原体の特徴を理解し、感染症の病態を説明できる。 3.感染症の治療の基礎を身に着ける。 4.感染症の予防についての基本事項を説明できる。 5.感染症法に基づいた届け出義務の基本事項を説明できる。
D．学習内容	消化管感染症（ウイルス性胃腸炎、カンピロバクター、病原性大腸菌、サルモネラ属、ディフィシル菌、毒素性食中毒、寄生虫疾患）の病原体の特徴、発症機構を復習する。また消化管感染症の診断、治療、予防、疫学および感染症法上の届け出義務について学習する。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A)標準感染症学 医学書院 (A)標準微生物学 医学書院 (R)病気が見えるvol.6 免疫・膠原病・感染症（第2版）メディックメディア ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの （A）：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)ブラック微生物学 丸善 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの （A）：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】感染症（感染症学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/10	木	3	消化管感染症	消化管感染症（ウイルス性胃腸炎、カンピロバクター、病原性大腸菌、サルモネラ属、デフィシル菌、毒素性食中毒、寄生虫疾患）の病原体の特徴、発症機構を復習する。また消化管感染症の診断、治療、予防、疫学および感染症法上の届け出義務について学習する。	三戸部治郎	特に指定しない	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】高齢医学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】神崎恒一　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　神崎恒一 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	高齢者を診るうえでは、高齢者に特有な疾患や病態（多病、老年症候群）、またその背景にある心身の機能の低下（フレイル、サルコペニア）について理解する必要がある。また、心身の機能が衰えた高齢者を支える社会の仕組み（介護保険制度など）についても知っておく必要がある。本講義ではそのような知識を修得する。
B. 到達目標	高齢者の特性である各臓器の機能低下、フレイル、サルコペニア、老年症候群、多病についてまず理解する。そして、それを評価するための方法である総合機能評価について理解する。また、医療と同時に必要な介護保険制度や具体的なサービス内容について理解する。特に認知症の場合、介護保険サービスを利用する機会が多いので、認知症診療を理解する。これらの知識は、すべて卒後臨床研修で必要となるものである。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 高齢者を総合的に評価する方法について理解する。 2. フレイル、サルコペニアについて理解する。 3. 介護保険制度ならびにサービスについて理解する。 4. チーム医療・多職種協働ACPについて理解する。 5. 認知症について理解する。
D. 学習内容	高齢者に特有の病態（多病、フレイル、低栄養、老年症候群、認知症など）、総合機能評価（ADL、認知機能、うつ、意欲など）、認知症を理解し、その対処法（医療的対応と介護保険を利用した対応）について学ぶ。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	教科書の該当項目に目を通しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	指定教科書ならびに講義で配布されたプリントをよく読み、授業内容の理解に努める。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	老年医学系統講義テキスト（日本老年医学会編集／発行）西村書店 2013
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 改訂版健康長寿診療ハンドブック（日本老年医学会編集／発行）メジカルビュー社 2019 (R) 老年医学テキスト第3版（日本老年医学会編）メジカルビュー社 2008 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 新老年学（大内尉義編）東京大学出版会 2010 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】高齢医学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/22	火	3	内科総論： 高齢者の特徴、 医療・介護に必要な知識、認知症	高齢者に特有の病態（多病、フレイル、老年症候群）を理解し、その対処法（医療的対処と介護保険を利用した対応）について復習する。また、認知症について診断、治療、ケアなどを包括的に理解する。	神崎恒一	老年医学系統講義テキスト 60-69、73-86、92-126、257-265、288-297	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】 医学総論・生活習慣病（予防医学）	科目ナンバリング	【学科目】 FME-5H04
単位	【学科目】 14単位	コマ数	【主題目】 1コマ
科目責任者	【主題目】 徳永健吾 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 徳永健吾 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	実臨床への準備教育と位置づけられる授業である。講義では、臨床医学講義で学んだ生活習慣病についての知識を診断に応用するために、主要な症状や検査値に基づいて鑑別診断を列挙すること、および検査計画、治療計画の立案について学び、理解、整理する。
B. 到達目標	実臨床において、診療チームの一員として主要症状から鑑別診断を列挙し、さらに診断を進めるための臨床推論の基本を習得する。また、実際の患者に接して医療面接と身体診察を行うために必要な診療技能と医療者としての態度を身につける。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1.メタボリック症候群の概念・診断基準・治療について説明できる。 2.高血圧・糖尿病・脂質異常・尿酸代謝異常の診断基準・治療について説明できる。 3.生活習慣が関連する疾患について説明できる。 4.医療面接と身体診察を行うために必要な診療技能を習得する。
D. 学習内容	生活習慣病全般につき講義する。授業内容の理解を深めるためのアクティブラーニングとして小テスト、演習を適宜行う。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、生活習慣病についての情報を調べたうえ講義に望む。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布された資料や演習問題の解説等について十分に復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特になし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A) 内科学 第12版（朝倉書店） ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】医学総論・生活習慣病（予防医学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/14	月	2	生活習慣病	生活習慣が関連する疾患や癌について、臨床診断、鑑別診断、適切な治療法について、理解・整理する。小テストを実施する。	徳永健吾	配布資料	講義(AL)

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】医学総論等(医療の質と安全・医療事故防止)	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】武井秀史 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 武井秀史 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	「M6臨床総合演習」は、医学部6年間の学習の総まとめと位置づけられる。医師として必要な教養、基礎医学、臨床医学と多くのことを学んできたが、その中で医療の質と安全・医療事故防止対策等の重要事項をまとめて解説する。
B. 到達目標	医療の質と安全・医療事故防止等に関する重要事項を理解し、医師となった時に実践できる十分な知識を身につけることを目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 病院機能評価、クリニカルインディケータ、患者満足度、患者説明文書・同意書、インフォームドコンセント、クリニカルパスについて説明できる。 2. 医療事故の発生要因・再発防止策について考察できる。 3. インシデンレポートと医療事故報告書の役割が理解できる。 4. 医療事故調査制度、産科医療保障制度を説明できる。 5. 医薬品による有害事象への対応を説明できる。 6. 医薬品による有害事象への対応を説明できる。
D. 学習内容	1 コマの講義で医療の質と安全の確保について解説する。
E. 実習・課外授業	1. 実 習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	過去数年分の医師国家試験問題で該当する問題を解いてみて、自分は何の部分はまだよく理解できていないかを把握しておくことが望ましい。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	授業で解説した内容について、卒業試験等の既出問題を解いて確実な知識として定着させること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合格判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特になし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】医学総論等（医療の質と安全・医療事故防止）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/2	火	3	【医療の質と安全・医療事故防止対策】	医師として必要とされる医療の質と安全・医療事故防止等に関する重要事項を要約して、解説・講義する。	武井秀史	なし	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】外科総論	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】井本滋　教授		
担当教員	【主題目】 講　師　吉敷智和 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	臓器別統合型学習を効果的に実践できるようになるために、外科学全般について病態・治療を十分に把握・理解し、手術侵襲に対する生体反応やその治療過程など基礎医学に基づいた外科医療の知識を学ぶことが目的である。
B. 到達目標	外科的侵襲、外科代謝学、周術期管理、外科腫瘍学、外科基本手技について理解する。 1) 外科総論を理解することができる。 2) 下記の項目につき理解・説明できることを目標とする。 ①医の原則とリスクマネジメントについて ②病態と症候について 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1) 外科治療の意義を理解する。 2) 手術における侵襲・危険因子・合併症・輸血について理解する。 3) インフォームド・コンセントの重要性を理解する。
D. 学習内容	1) 外科的治療の基本的考え方を説明できる。 2) インフォームド・コンセントの定義と必要性について説明できる。 3) 外科手術に必要なリスクマネジメントについて説明できる。 4) 手術侵襲による生体反応をあげ、基本的対応を説明できる。 5) 手術の危険因子をあげ、基本対応を説明できる。 6) 周術期管理を理解し、主な術後合併症をあげ、基本対応を説明できる。 7) 輸血の適応、種類、副作用を説明できる。 8) 移植の概念、適応、種類を説明できる。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、それらに照らし合わせた外科学の過去の講義内容を復習し、教科書・参考書、必要に応じて文献検索などにより、関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学 医学書院 最新版
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A) 新臨床外科学 南山堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 国試外科学 医学評論社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】外科総論

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/19	金	1	外科総論	外科的侵襲、ショック、外科代謝と栄養につき基本的項目を見直す。また外科腫瘍学と外科基本手技の本質を理解し、演習を行う。	吉敷智和	標準外科学	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】乳腺外科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】井本滋　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　井本滋 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	乳腺疾患に関する理解を深める。
B. 到達目標	乳癌の疫学と診断、良性疾患との鑑別、集学的治療の意義について理解する。 乳房の解剖、乳腺とホルモン、良性および悪性疾患について学習する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	乳腺疾患の診断と治療を理解する。
D. 学習内容	乳腺の解剖と生理を習得する。良性悪性疾患の特徴と画像診断について習得する。治療の概要について理解を深める。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	M4 講義、ならびにM5 B S L で配布したプリントを復習する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合格判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学 医学書院 最新版
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A) 新臨床外科学 南山堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 国試外科学 医学評論社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】乳腺外科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/5	金	1	乳腺疾患の診断と治療	乳腺の解剖と生理を習得する。良性悪性疾患の特徴と画像診断について習得する。治療の概要について理解を深める。	井本滋	標準外科学	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】麻酔科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】森山潔　教授		
担当教員	【主題目】 学内講師　渡辺邦太郎 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	麻酔科学が対象とする患者は、手術室・ICU・ペインクリニック・緩和ケア等いずれにおいても、疾患やその治療による様々なストレスにさらされている。麻酔科学の学習を通して、個々の患者の病態を総体的に理解し、適切な全身管理と苦痛を軽減するために必要な知識を修得する。
B. 到達目標	周術期の全身管理をはじめ麻酔関連の医療現場で必須の倫理感に基づいた態度を習得すること、全身管理や心身の苦痛の軽減に必要な医学的知識を持ち、個々の病態における適切な問題抽出・解決能力を備えていること、各医療現場で、患者・家族・多職種の医療スタッフとの信頼関係を築き、問題解決のために有効な協力体制を構築できるようなコミュニケーション能力を身につけていること、を到達目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 術前評価に必要な診察の仕方や検査の手順を説明できる。 2. 合併症（心疾患、呼吸器疾患、代謝疾患など）を有する患者の術前評価と麻酔管理法の選択についてあらましを説明できる。 3. 標準的な麻酔（全身、局所）の方法、それに伴う全身状態の変化と合併症とその対策について理解する。 4. 術中麻酔管理に必要な器具や患者監視装置について、薬剤の種類と作用について理解する。 5. 気道管理法特に気管挿管の目的と方法、合併症・挿管困難について理解する。 6. 周術期の主要な合併症とその治療についてあらましを説明できる。 7. ペインクリニック・緩和ケアの基本的概念と方法を理解する。
D. 学習内容	麻酔・疼痛管理に関して、これまでの講義と実習で得た知識の総復習を行う。範囲は、全身麻酔、局所麻酔、周術期全身管理、疼痛管理全般（ペインクリニック・緩和ケア）とする。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	シラバスに示した教科書の指定箇所及び「M4麻酔科学講義資料」を事前に読んでおく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布された資料を熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 標準麻酔科学 第7版 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】麻酔科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/1	月	4	麻酔・疼痛管理	麻酔・疼痛管理に関して、これまでの講義と実習で得た知識の総復習を行う。範囲は、全身麻酔、局所麻酔、周術期全身管理、疼痛管理とする。	渡辺邦太郎	標準麻酔科学 第7版 医学書院	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】形成外科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1 コマ
科目責任者	【主題目】多久嶋亮彦 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 多久嶋亮彦 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	M 4、5 で学んだ知識、実習を踏まえて、形成外科領域における卒業後の臨床研修に必要な十分な医学知識の習得の完成を目指す。
B. 到達目標	形成外科では他者の目にとまる部位を扱うため、より高い次元での価値観、倫理観を医師が持つことを要求される。これらは他科の医師にも通じることであるので、形成外科を通じてそれを学ぶ。 形成外科では頭部・顔面、体幹、四肢とあらゆる部位を扱うため、医学的知識として、人体の正常の構造と機能を深く理解する必要がある。それらの習得を目標とすることは国家試験での基礎的な問題にも対処可能である。 臨床研修で経験する可能性のある形成外科領域の知識を身につける。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 顔面解剖（骨、血管、神経、筋肉の構造）の解剖名を覚えるだけでなく、自分で3次元の構造をイメージできるようにすること 2. 挫創、切創、熱傷など創傷治癒の過程が把握できるようにすること 3. 形成外科における疾患の病態、治療法の概要が理解できるようにすること
D. 学習内容	形成外科領域の試験問題を分野別にまとめているので、それらの問題を解いていけば自ずとその領域の知識が身につく。プリントに問題をまとめ、その解説も作成しているので、講義後にも活用してもらいたい。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	近年、系統解剖、創傷治癒、など基礎的なこと、特に脳神経の感覚、運動支配に関する知識が重要視されているのでこれらを復習し、準備しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	プリントに書かれている過去の試験問題と解説を参考として、形成外科領域知識を総括的に身につける。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	解剖学書
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R)波利井 清紀監修 TEXT形成外科学（改訂3版） 南山堂 2017 (R)平林慎一監修 標準形成外科学 医学書院 第7版 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】形成外科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/1	月	1	形成外科関連の試験問題と復習	近年、系統解剖、創傷治癒、など基礎的なこと、特に顔面骨の解剖や、脳神経の感覚、運動支配に関する知識が重要視されているので、復習を兼ねて既出問題を解説する。	多久嶋亮彦	波利井 清紀監修 TEXT形成外科学（改訂 3版）南山堂 2017	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】精神神経科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】4コマ
科目責任者	【主題目】渡邊衡一郎 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 渡邊衡一郎 准教授 坪井貴嗣 講 師 櫻井準 学内講師 今村弥生 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく内容を講義する。		

A. 教育の基本方針	精神症状は画像や血液検査などで表出されず、面接においても、非言語的な側面から症状の評価が必要となる。また、社会的背景も症状・行動障害に影響を与えることや、精神症状があるために治療を拒否する当事者への人権を配慮した治療を要する場合もある。5年生までの臨床実習で得た、これらの特徴を踏まえた診療の中で、臨床上重要な点を中心に知識の整理を行う。
B. 到達目標	1. 主要な精神疾患の概要・診断・治療について説明できる。 2. 精神保健福祉法、その他関連法規を理解し、人権に配慮した医療について論じることができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 精神疾患を持つ患者の外来診療を担当した場合を想定して、必要な病歴聴取と現象・鑑別診断を上げることができるようになる。 2. 主要疾患については薬物選択を含めた治療方針を選択できるようになる。 3. 精神障害を持つ当事者の人権に配慮し、リカバリーに向けた社会資源や心理社会的アプローチについて検討できるようになる。
D. 学習内容	日程と詳細は別紙参照。問題解説を中心に領域をまとめて講義する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	教科書、参考書により基本的な知識を学習しておく。過去の試験問題に目を通しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	授業で指摘したポイントを教科書、参考書での記載、過去の問題内容を改めて確認する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準精神医学（医学書院）第9版 尾崎紀夫・三村将・水野雅文・村井俊哉・明智龍男編
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 精神科における予診・初診・初期治療（星和書店）笠原嘉著 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会編 医学書院 (A) カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンス インターナショナル）第3版 (R) 臨床精神医学講座 中村書店 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】精神神経科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/24	水	4	症状精神病 認知症以外の器質性 精神障害 精神科薬物療法 依存 と中毒 睡眠障害 児童思春期の 精神障害	左記テーマについて、最新の文類に基づいた解説を行う。また精神疾患への薬物療法についても適応、副作用について復習する。	櫻井 準	p523-543,150-169,413-449,397-411,251-270	講義
10/1	水	3	統合失調症 気分障害	代表的な精神障害の統合失調症とうつ病と、その周辺の疾患の概念、症状や臨床特徴、治療法などについての基礎知識を復習する。	坪井 貴嗣	p271-295,297-320,321-332	講義
10/15	水	1	不安症関連 認知症 摂食障害 心理検査 精神保健福祉法	左記の病態について間違いやすい点を重点的に復習する。心理検査と精神保健福祉法についても近年の出題傾向をもとに解説する。	今村 弥生	p333-369,451-484,371-395,129-143,197-244	講義
10/22	水	3	精神医学全般のミニマムエッセンス	最近の国試・卒試の出題傾向について解説し、精神科領域における最も重要かつ基本的な内容を集中的に学び復習する。	渡邊 衡一郎	全体	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】小児 (小児科学)	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】9コマ
科目責任者	成田雅美 教授		
担当教員	教 授 成田雅美、吉野浩 准教授 保崎明、細井健一郎 講 師 田中絵里子 学内講師 麓聖子、宮田世羽、木内善太郎 助教 瀧浦俊彦 講義を担当する教員は、主として医学部付属病院で医師として臨床業務に従事しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育を行うことができる。		

A. 教育の基本方針	子どもは「小さな大人」ではなく、誕生し育ち自立していく存在である。胎児期から出生までの大きな環境の変化、その後の発達・発育をする子どもを理解し、小児期特有の病気・病態について、網羅的に復習する。
B. 到達目標	卒業に向けてこれまでに習得した知識の総まとめを行う。小児疾患の成因、病態、予後における特性について知識を整理する。自主的な意見の発信を促し、コミュニケーション能力の向上を目指す。健康な新生児、乳児、幼児、学童、思春期の生理的および精神的な発達を学ぶ。その上で小児の主な疾患について、病態および臨床像についての基本的な知識を復習する。特に主要症状から鑑別診断を列挙し、さらに診断を進めるための臨床推論の基本を習得する。また小児期の保健について必要な知識を学ぶ。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1.問題解決に必要な患者情報を適切に収集し、整理できる。 2.小児科の特性（疾患、検査結果、診療技術）を理解できる。 3.小児特有の生理学を基にした鑑別診断ができる。 4.疾患の症例を適切に要約し、他者と討論できる。
D. 学習内容	小児科学についての過去の試験問題を分類し、演習を行いながら、知っておくべき知識を復習する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	M 4 の小児科学の内容および、M 5 BSLの診断学の内容。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	原 寿郎監修 標準小児科学 第9版 2022医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 小児科診療ガイドライン 最新の診療指針 第5版 加藤元博：編集 2023 総合医学社 (R) 小児科診断・治療指針 改訂第3版 加藤元博：総編集 2024 中山書店 (R) 小児臨床検査2024 「小児内科」「小児外科」編集委員会共著 2024 東京医学社 (A) 小児疾患診療のための病態生理 1, 2, 3 改訂第6版 東京医学社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】小児（小児科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/3	水	2	成長・発達・栄養・アレルギー	小児の成長・発達、栄養に関する問題は頻出である。さらに、小児に多いアレルギー疾患の特性について復習する。	成田雅美	標準小児科学 第1章、第2章、第3章、第13章	講義
9/4	木	1	免疫・膠原病・腎臓・川崎病	免疫不全症、川崎病などの膠原病、小児腎疾患について、重要なポイントを復習する。	木内善太郎	標準小児科学 第12章、第14章、第21章	講義
9/5	金	2	内分泌疾患・代謝疾患	小児期に多い内分泌疾患、低身長、性分化異常などについて重要なポイントを復習する。代表的な代謝疾患を復習する。	瀧浦俊彦	標準小児科学 第10章、第11章	講義
9/8	月	1	循環器疾患	頻度の高い先天性心疾患を中心に、重要なポイントを復習する。	保崎明	標準小児科学 第17章	講義
9/10	水	1	小児保健・予防接種・感染症	小児期の感染症および予防接種についての基本的な知識を復習する。予防接種の基本的な種類とスケジュールを習得する。	田中絵里子	標準小児科学 第4章、第15章	講義
9/30	火	2	神経疾患・神経筋疾患・発達障害	小児期の代表的な神経疾患、筋疾患、てんかん、発達障害などについてポイントを復習する。	宮田世羽	標準小児科学 第22章、第23章、第24章	講義
10/1	水	2	新生児	正常新生児の特徴と、新生児期に特有な疾患群のポイントを復習する。	細井健一郎	標準小児科学 第7章	講義
10/17	金	1	呼吸器疾患・血液疾患・腫瘍	小児の呼吸器疾患、小児の悪性腫瘍、特に最も頻度の高い疾患である白血病について、その病態の特徴と、実際の治療について復習する。	吉野浩	標準小児科学 第16章、第19章、第20章	講義
10/17	金	3	遺伝性疾患・染色体異常・奇形・先天代謝異常	基本的な遺伝学の知識を確認し、染色体異常などの先天異常および、先天代謝異常について復習する。	麓聖子	標準小児科学 第8章、第9章	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】小児（小児外科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】浮山越史　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　浮山越史 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	小児外科の主な疾患を想起し、診断から治療に至る過程を説明できる。
B. 到達目標	基本的な小児外科の医学的知識を備え、系統だった基本的な臨床技能が行え、適切な問題解決能力を示すことができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 小児外科の主な疾患の「概略」を説明できる。 2. 小児外科の主な疾患の「症状」を理解している。 3. 小児外科の主な疾患の「診断」のためのプロセスを説明できる。 4. 小児外科の主な疾患の「治療」を理解する。
D. 学習内容	小児外科の主要疾患 アクティブ・ラーニングを行う
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前に4年時の学習の際に使用した資料を読み、関連事項についての情報を得たうえでこれに目を通し演習に備える。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で配付された問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学（第16版）医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 標準小児外科学（第8版）医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】小児（小児外科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/8	月	4	小児外科関連問題解説	小児外科に関係する過去の試験問題の解説	浮山越史	標準外科第16版 小児外科	講義(AL)
9/22	月	4	小児外科関連問題解説	小児外科に関係する過去の試験問題の解説	浮山越史	標準外科第16版 小児外科	講義(AL)

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】産科婦人科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】8コマ
科目責任者	【主題目】小林陽一 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 小林陽一、森定徹 准教授 田嶋敦 講 師 松本浩範、百村麻衣 学内講師 松島実穂 助教（任期）小林千絵、北村亜也 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	産婦人科領域における、卒業後の臨床研修に必要な十分な医学知識の習得と応用力の完成を目指す。
B. 到達目標	1. 生殖・妊娠・分娩の生理に精通し、これらの領域の疾患について診断法と治療法を述べられる。 2. 婦人科良性・悪性疾患の病態及び女性医学について理解し、それらの診断・治療法をあげることができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 妊娠に伴う生理学的変化を把握し、妊娠合併症及び合併症妊娠の病態と周産期管理の概略を説明することができる。 2. 胎児の発達生理を理解し、病態と診断、管理について説明できる。 3. 分娩・産褥の正常経過及び異常について理解し、治療を述べることができる。 4. 女性性器の基本的解剖を説明できる。 5. 超音波断層法やMRIなどの画像診断における子宮や卵巣の正常・異常所見を説明できる。 6. コルポスコピーや細胞診・組織診所見をみて診断を推定することができる。 7. 月経周期に関連するホルモン値について、その意義や相互関係、異常について説明ができる。 8. 婦人科良性・悪性腫瘍について、診断・鑑別診断・治療法を説明できる。 9. 生殖医療について診断・治療法について説明できる。
D. 学習内容	講義で重点項目を中心に、症例を中心に診断から治療の流れにつき、知識、考え方の整理をする。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと（所要時間の目安：各コマ75分程度）。
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること（所要時間の目安：各コマ75分程度）。
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合格判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準産科婦人科学 第5版 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 1. 講義録 産科婦人科学 メディカルビュー社 (R) 2. Textbook of Gynecology Williams and Wilkins (R) 3. Handbook of Obstetrics and Gynecology Lange.Med.Pub. (A) 4. Scientific Essentials of Reproductive Medicine Saunders. (A) 5. Williams Obstetrics Appleton-Century-Crofts ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付ファイル」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】産科婦人科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/3	水	1	子宮腫瘍	子宮頸癌・体癌および非上皮性悪性腫瘍である子宮肉腫について、疫学、病因、病理病態、症状、検査、治療、予後について復習する。	小林陽一	プリントまたはスライドを使用	講義
9/8	月	2	女性医学、外陰・腔疾患、絨毛性疾患	更年期・加齢による変化、外陰・腔疾患、感染症等、絨毛性疾患について過去の国家試験問題より復習、解説をおこなう。	百村麻衣	プリントまたはスライドを使用	講義
9/8	月	3	月経異常、不妊症、性分化	月経異常の定義、月経異常を起こす疾患とその診断法、不妊症と不育症の病因、検査、診断ならびに治療、さらに性分化の決定因子と分化の仕組みと性分化疾患について主に過去の国家試験問題を用いて復習、解説をおこなう。	森定 徹	プリントまたはスライドを使用	講義
9/17	水	2	正常妊娠・分娩、妊娠の生理	妊娠の成立、流産・早産・正常産・過期産の定義、胎盤の構造および役割、胎児およびその付属物（臍帯、胎盤、卵膜）を中心として妊娠の生理、正常分娩の開始と経過およびその診断法について復習する。	田嶋敦	プリントまたはスライドを使用	講義
9/17	水	3	卵巣腫瘍、子宮内膜症	卵巣腫瘍について臨床症状から診断、治療に至るまで系統的に講義を行い、子宮内膜症の病態、症状、診断、治療について国家試験過去問題を中心とした要点およびポイントを解説する。	松本浩範	プリントまたはスライドを使用	講義
9/30	火	3	母子保健、出生前診断、産褥	母子保健、出生前診断、産褥の分野について、国家試験過去問題を中心に復習しポイントを解説する。	松島実穂	プリントまたはスライドを使用	講義
10/1	水	4	異常妊娠、合併症妊娠	異常妊娠では異所性妊娠、流・早産、多胎妊娠、羊水の異常、妊娠高血圧症候群など、合併症妊娠では糖尿病合併妊娠、膠原病合併妊娠、心疾患合併妊娠、婦人科疾患合併妊娠などの復習する。	小林千絵	プリントまたはスライドを使用	講義
10/6	月	1	分娩監視、分娩の異常	分娩の経過と内診や分娩監視装置等を使用した管理の方法、児の娩出とその介助に関して復習する。さらに正常の経過から逸脱した場合の分娩管理について主に過去の国家試験問題を用いて復習、解説をおこなう。	北村亜也	プリントまたはスライドを使用	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】運動器（整形外科科学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】細金直文　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　細金直文、森井健司 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	整形外科（運動器）分野の主要疾患について、問題解決型思考を育成する。
B. 到達目標	運動器の主要疾患について病態、診断方法、診断および鑑別診断、治療方法の原則を理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 運動器の正常構造と機能について理解し、主要な運動器疾患の病態と自然経過について説明できる。 2. 運動器の外傷について診断でき、その基本的治療法について説明できる。 3. 外傷以外の運動器疾患について、診断方法と治療方針について説明できる。
D. 学習内容	問題を提示し、当該疾患の診断から鑑別診断、治療法の選択までの思考過程を理解する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、講義範囲の教科書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、予習しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義で解説した演習問題を反復して解くことにより主要疾患に対する理解を深めること。また、教科書の関連部分も参考にして主要な運動器疾患の知識を整理する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	井樋栄二、他編集 『標準整形外科科学 第15版』 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 土屋弘行他編集、「今日の整形外科治療指針」第7版 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 越智隆弘総編集、「最新整形外科学体系」シリーズ 中山書店 (A) 日本整形外科学会監修、「診療ガイドライン」シリーズ 南江堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】運動器（整形外科科学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/14	火	3	運動器 脊椎・脊髄・末梢神経	臨床的に必要な神経学、脊椎脊髄疾患を系統的に復習する。事前配布資料をもとに指名し学生に回答してもらう。	細金直文	標準整形外科科学(第15版)他 資料配布	講義(AL)
10/21	火	1	運動器 関節疾患・感染・骨軟部腫瘍・外傷	運動器疾患の診断学の知識を系統的に整理する。また、重要な関節疾患、感染、腫瘍、外傷等の基本的知識を解説する。	森井健司	標準整形外科科学(第15版)他 資料配布	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】リハビリテーション医学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】山田深　教授		
担当教員	【主題目】 教　授　山田深 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	リハビリテーション（以下リハ）に関する主要なテーマについて系統的復習を行う。
B. 到達目標	リハ医学における問題点について、人体の機能障害という視点のみならず、活動と参加という社会との接点における障害と理解し、生活機能を評価して介入する方法を示すことができる。また、チーム医療に関してリハ関連職種の役割、福祉的側面からの支援を説明できる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑩, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. リハ医療の理念と関連職種を説明できる。 2. 代表的疾患で障害の構造を例示できる。 3. 運動器リハの対象と方法を説明できる。 4. 脊髄損傷の障害とリハの目標を説明できる。 5. 脳卒中の障害とリハの目標を説明できる。 6. 内部障害リハの対象と効果を概説できる。
D. 学習内容	過去の出題問題を提示して、関連する内容を系統的に復習する形式で講義を進める。とくに脳血管障害などの中枢神経損傷、また骨関節疾患に関連したリハ内容が大きな位置を占める。また、総論的内容も、関連付けて講義に含める。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	臨床医学講義「整形外科・リハ」「脳神経外科（脳外傷等）」「脳卒中・神経内科」の試験でリハ科として出題した問題を見直し、関連事項について教科書や参考書等で情報を得ておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	演習で取り上げた試験問題（配布プリント）を見直し、わからないところがあれば関連する内容を教科書で調べ、理解を深めること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	医学書院「標準リハビリテーション医学 4版」
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A)医学書院「リハビリテーションレジデントマニュアル」 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 金原出版「現代リハビリテーション医学」 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】リハビリテーション医学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/9	火	3	主な疾患のリハビリテーションとその理念	リハビリ理念・構成、障害分類、機能予後と目標設定、脳卒中、脳外傷、片麻痺、高次脳機能、廃用症候群、骨関節疾患、脊髄損傷、末梢神経障害、内部障害	山田深	医学書院「標準リハビリテーション4版」	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】泌尿器科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】福原浩 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 多武保光宏 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	卒業後の臨床研修に必要な十分な泌尿器科領域の医学知識を習得し、応用力を付けることを目標とする。 以下を基本方針とする。 1. 副腎・腎尿路性器系の基礎的知識の修得 2. 各疾患理解の基本となる解剖学や生理学的検査、画像診断について学習し、その後各疾患について理解を深める。特に全身との関わりの中で各疾患を理解できるようにする。 3. 医の倫理、医師の使命の自覚を培うことを目標とし、本領域の医学知識を兼ね備えた医師を育成する卒前教育を基本方針とする。
B. 到達目標	医師の素養として必須である価値観、倫理、態度の習得を完成させる。泌尿器疾患の成因、病態、予後における特性についての知識の整理を完成させる。自主的な意見の発信を促し、コミュニケーション能力の向上を目指す。 1. 腎尿路性器系の形態を理解し、それぞれの基本的機能を述べることができる。 2. 腎尿路性器系の症候と病態について説明することができる。 3. 泌尿器科の診療体系は腫瘍学、腎臓病学、内分泌学、神経内科学、小児及び老年医学などと関連した領域を有する。どの分野においても医師として修得すべき基本的な腎泌尿器生殖器疾患の概念、病態、およびその診断に必要な検査法、治療法などを系統立てて理解し、具体的に述べるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	泌尿器科に特徴的な症状（血尿、排尿困難など）から鑑別すべき疾患を列挙でき、それぞれの疾患の治療法を正しく提示できる。 1. それぞれの主要症候から鑑別すべき疾患を的確に答えられる。 2. 解剖学的知識から、泌尿器癌の転移形式を類推できる。 3. 泌尿器疾患の手術療法の基礎を理解し、解剖学の知識でこれを説明できる様にする。
D. 学習内容	過去の試験問題を中心に、泌尿器科全領域を俯瞰できるように各疾患を解説する。 アクティブ・ラーニングとして、ランダムに学生を指名して各問題を回答してもらう。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	指定教科書を通読してくることが望まれる（目次を見て、それぞれの検査や疾患がどのようなものか連想できるようにしておく）。M4、M5で行った試験問題を見直しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	授業で配られた問題に再度目を通し、教科書の関連部分を熟読することにより知識を一層確実なものにする。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	病気が見えるvol.8腎・泌尿器 MEDIC MEDIA
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A) LANGE medical book Smith & Tanagho's General Urology (18th edition) (A) 標準泌尿器科学 第8版 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) Campbell-Walsh Urology (12th edition) (A) ベッドサイド泌尿器科学（改訂第4版）南江堂 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】泌尿器科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/14	火	1	症候および尿路閉塞	重要な泌尿器科的症候、尿路閉塞を整理し理解する。その上で、これら症候および尿路閉塞に関連した疾患について解説する。（資料配布）	多武保光宏	病気がみえるvol.8 腎・泌尿器 16～48、242～247、294～319	講義
10/14	火	2	最後に覚えておくことは？	泌尿器科関連の総集編として最後に覚えておくべきことをまとめる。	多武保光宏	病気がみえるvol.8 腎・泌尿器 242～352	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】皮膚科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】大山 学 教授		
担当教員	【主題目】 教授 大山 学 講師 木下美咲 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	系統講義、BSLを通じて習得した皮膚科全般に関する理解、知識の固定化を目指す。実臨床における他の診療科との連携を意識し、学問体系としての医学全体における皮膚科学の占める位置を理解するとともに他科領域との関連について学ぶ。臨床的に重要なポイントは皮膚科学領域においては医師国家試験の頻出事項と密接に関係していることから、前述の目的の達成のために過去の試験問題を活用し知識の整理を行いつつ、対策としても両立しうる講義を行う。
B．到達目標	皮膚科診療に必要な診断のための方法論を習得する。代表的皮膚疾患に関する知識を備えるとともに、発疹学に基づき皮疹の性状を正確に記載または提示する能力を身につける。また、それに基づき鑑別疾患をあげ疾患を除外し診断にたどりつくための方法論を習得する。遭遇したことのない疾患の診断のために学術資料を検索する能力を会得する。研修が終了した際には、代表的な皮膚疾患を診断し治療方針をたてることができるようになることを目指す。これにより、皮膚科学における臨床的重要事項を把握するとともに、初期臨床研修で活用できる皮膚科学の基本的事項の確実な習得を目指す。 【吉林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1.皮膚の基本構造と生理学的、免疫学的特徴について理解し、その異常として皮膚疾患の病態を説明できる。 2.皮疹について肉眼的所見、画像解析デバイスを用いた観察結果から病理組織学的所見を想起できる。 3.全身疾患とその特徴的皮膚所見を関連付けることができる。 4.遺伝的素因を背景に発症する皮膚疾患の機序を分子生物学的、細胞生物学的見地から説明できる。 5.皮膚腫瘍の発生母地、疫学、生物学的特性を修得する。 6.皮膚科学で用いられる治療法の特性について理解する。 7.アビアランスの障害の観点から皮膚疾患が患者の精神状態・社会生活に与える影響を判断することができる。 8.以上で修得した知識を活用し皮膚疾患の病態に基づき最適な治療を選択することができる。また、習得した知識に基づき専門医へのコンサルテーションの要不要について判断できるようになる。
D．学習内容	講義のテーマを特に皮膚科学領域で重要かつ国家試験でも頻出され、かつ初期研修でも重要な「皮膚科学総括ー皮膚科学における重要疾患の再確認」とする。具体的には湿疹・皮膚炎群、乾癬、水疱症、薬疹、皮膚腫瘍、感染症などに重きをおきつつ病態、診断、治療についての知識の再認識と固定化を図る。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。特に系統講義で配布したプリント、推奨図書の該当テーマについての記載部分に関して知識の再確認のために事前に習熟しておくことが望ましい。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題を熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。試験での得点にもとづく判定結果によりフィードバックを行う。可否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	清水 宏著 あたらしい皮膚科学（第3版） 中山書店 2018
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 岩月啓氏監修、照井 正、石河 晃編集 標準皮膚科学（第11版）医学書院 2020 (R) 大塚藤男著 上野賢一原著 皮膚科学（第10版）金芳堂 2016 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) Bolognia J et al: Dermatology 4th edn. Mosby 2017 (A) Kang S, et al.: Fitzpatrick’s Dermatology 9th edn.MCGRAW-HILL EDUCATION 2019 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J．講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】皮膚科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/24	水	3	国試における皮膚科学の位置付け：臨床的重要性からみた重点ポイント解説	最新の国家試験における皮膚科学領域からの出題様式をもとに今後の国試における位置づけについて解説する。皮膚科領域において臨床上に重要なポイントと国試で頻出の項目は比較的良好に合致しているため、系統講義の復習を兼ねる。	大山学	50～72、93～114、186～201、202～227、228～257、115～125、126～160、449～466、483～491、424～448、467～482、85～92、327～354、355～407、409～423	講義
9/26	金	1	皮膚科学全般	過去の試験問題をたたき台に、皮膚科学全般に関わる重要ポイントをまとめ、必要な知識を整理、記憶させる。講義は質問形式とし、知識の定着を目指す。	木下美咲	50～72、93～114、186～201、202～227、228～257、115～125、126～160、449～466、483～491、424～448、467～482、85～92、327～354、355～407、409～423	講義(AL)

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】眼科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】3コマ
科目責任者	【主題目】井上 真 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 慶野 博 講 師 松木 奈央子、福井 正樹 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	卒後臨床研修を見据えた眼科学の総まとめと位置付けられる講義である。 これまでの系統講義、および臨床実習で習得した知識を整理し、眼科領域の主要疾患、全身疾患に関連する眼疾患、および救急疾患に関する病態の理解に基づいた診断学的思考を育成する。 臨床研修を行うにあたり必要とされる主要眼科疾患の基本的な知識、必要な検査、鑑別診断、治療方針について理解する。
B. 到達目標	主要な眼疾患の症状、眼所見、診断に必要な検査など診断までのプロセス、鑑別診断、適切な治療法、視力予後などについて理解している。 また高血圧や糖尿病など全身疾患に合併する代表的な眼所見について理解している。 眼科領域における救急疾患の診断と治療の基本的知識を習得している。 また感染性眼疾患に対する院内感染対策について理解している。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 主要な眼疾患の病態を理解し適切な検査、診断、治療の選択ができる。 2. 全身疾患に合併した眼病変の診断ができる。 3. 眼科救急疾患の診断、治療の選択ができる。 4. 主要な眼感染症に対する診断、治療の選択ができる。
D. 学習内容	主要疾患について代表症例を呈示しながら、各疾患の病態・診断過程を理解する。 また関連する過去の国家試験問題についてその要点を提示、解説する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前に履修案内・授業内容（シラバス）の「講義テーマ」や「講義内容」を読み、キーワードに関連するM4の講義内容を復習しておくこと。 またBSLで配布された資料、クルズスの内容について復習しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	講義プリント、講義中に出題された練習問題の解答、および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 また過去の国家試験問題の中から講義で解説した問題と類似の問題を解き、講義で学習した内容を整理、定着させること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があったものは、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準眼科学(第15版) 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R)眼科学 文光堂 (R)病気がみえる Vol 12 眼科 Medic Media ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)今日の眼疾患治療指針 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J. 講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】眼科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/3	水	4	後眼部疾患1	重要な眼底疾患、とくに糖尿病網膜症、網膜剥離、高血圧眼底などを中心に講義を行う。	福井正樹	標準眼科学(15版)8, 14章	講義
9/10	水	4	眼の解剖、生理、視機能検査、前眼部疾患、後眼部疾患 ぶどう膜炎	眼球、視路、眼付属器（眼瞼、眼窩、外眼筋、涙器）の解剖、視機能検査、前、後疾患(眼瞼、結膜、角膜、水晶体疾患)、斜視・弱視疾患、ぶどう膜炎について講義を行う。	松木奈央子	標準眼科学(15版)1,2,3,4,5,9,10,16章	講義
10/17	金	2	前眼部疾患、後眼部疾患	重要な眼瞼、結膜疾患、角膜、水晶体疾患、斜視・弱視疾患、糖尿病網膜症、加齢黄班変性症、緑内障について講義を行う。	慶野博	標準眼科学(15版) 全般	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習　【主題目】耳鼻咽喉科学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】齋藤康一郎　教授		
担当教員	【主題目】 医員　村上諄 上記担当教員により、国家試験の分析を基に耳鼻咽喉科の傾向と対策を講義する。		

A. 教育の基本方針	耳鼻科の代表的疾患、検査所見を理解し、考え、確実に正解できるようにする。
B. 到達目標	医師国家試験において、耳鼻科分野ではどのような出題傾向がみられるか把握する。 医師国家試験において、出題されたら絶対に正解しなくてはならない問題に正解できるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	耳鼻科重要疾患の病態生理を理解することで、多種多様な問いに答えられるようにする。
D. 学習内容	授業で提示した耳鼻科重要ポイントを理解する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	耳鼻科の国家試験問題に目を通しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	UNIPAにアップロードした資料の解説をする。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があったものは、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	(1) New Simple Step 耳鼻咽喉科。監修 渡辺建介。総合医学社。 (2) 国家試験過去問題集。
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 1. あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科学。編集 香取幸夫ら。中山書店。 写真とイラストが多く解剖、疾患を目で見て理解しやすい。 (R) 2. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針。第4版。編集 森山寛ら。医学書院。 第一線の臨床に即しており、患者の診察から最近のトピックスまで各分野の専門家が執筆し中身が濃い。 (R) 3. 病気がみえる 耳鼻咽喉科。編集 医療情報科学研究所。メディックメディア。 写真とイラストが多く解剖、疾患を目で見て理解しやすい。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 新耳鼻咽喉科学 切替一郎、野村恭也編著 改訂第11版 南山堂。 基本と応用のそれぞれが必要かつ十分な範囲で記載されている。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】耳鼻咽喉科学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書
10/21	火	4	耳鼻咽喉科の国試対策	国家試験の耳鼻科出題傾向の分析結果をもとに授業を行う。出題の可能性が高い疾患の解説を行う。	村上 諄	国家試験過去問題集

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】救急、中毒（救急医学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】3コマ
科目責任者	【主題目】山口芳裕 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 山口芳裕 准教授 海田賢彦 講 師 加藤聡一郎 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	救急医学についてM6として必要な知識の習得と応用。
B. 到達目標	救急医学の総論・各論の重要事項につき、その基礎的および臨床的知識を習得している。 【杏林大学医学部学生への到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑩, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 救急医学で扱う疾患の原因、病態、臨床的特徴等、基礎的・臨床的知識を系統的に理解している。 2. 上記疾患の救急診療における適切な検査や処置法について、概略を述べることできる。
D. 学習内容	救急医学総論の他、急性中毒、熱傷、神経救急、呼吸器系、循環器系、消化器系、感染症、外傷学総論・各論、心肺蘇生、災害医療等に関する講義を行なう。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	授業で扱った項目等について、教科書や配布資料等を参考にして授業内容をよく理解・記憶するようにする。また必要に応じて、文献検索等により関連事項についての知識を深めるようにすること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	日本救急医学会（監修） 標準救急医学 第5版 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(A) 1. 日本救急医学会（監修） 救急診療指針 改訂第5版 へるす出版 (A) 2. 日本外傷学会、日本救急医学会（監修） 外傷初期診療ガイドライン 改訂第5版 へるす出版 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 1. 上條吉人著 臨床中毒学 医学書院 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】救急、中毒（救急医学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/1	水	1	ショック・心肺蘇生・中毒	ショック・心肺蘇生・急性中毒の病態生理、検査、治療などについて解説する。	山口芳裕	29-47145-152309-348359-425	講義
10/8	水	1	外傷・救急各論	外傷について、過去の試験問題を解説しながら、その背景にある病態生理、検査、治療等について解説する。 その他、救急医学で扱う中枢神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系等、内因性救急疾患の各論についても、広く解説する。	加藤聡一郎	359-425439-452	講義
10/21	火	2	熱傷・災害	熱傷・災害の病態生理、検査、治療などについて解説する。	海田賢彦	425-436459-479	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】法医学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】北村修 教授		
担当教員	【主題目】 助 教 山田真嗣 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	法医学は、医学および自然科学を基礎として法律上の問題を研究し応用する社会医学と定義される。実際には、医学に関わる具体的問題を対象として社会活動を行う学問である。このような法医学の基礎と実際、および臨床医学に関連する様々な内容について理解することを目標とする。
B. 到達目標	医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。 適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。 医療に関わる法律や、医療現場で適切に行うべき対応を理解し、医師が交付しなくてはならない文書を正しく作成できるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1.異状死体及び異状死体を検案したときの医師としての対応を説明できる。 2.死亡診断書と死体検案書の違い及び記載内容を説明できる。
D. 学習内容	法医学の基礎的知識と医療に関わる法律の考え方について説明し、診断書・検案書・証明書などの医師が交付しなくてはならない文書の作成方法、医療現場における医師の対応や適切な判断などについて解説する。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」「講義内容」を読み、最低でも指定教科書で予習を行い、必要に応じて参考書や文献検索等により関連事項について目を通しておくことが望ましい。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	配布されたプリントや教科書の該当するページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	NEWエッセンシャル法医学 医歯薬出版 第6版
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル 厚生労働省のホームページよりダウンロード ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 死体検案ハンドブック 金芳堂 第4版 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】法医学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/2	火	2	診断書記入・ 異状死等における医師の対応	法医学の基礎的知識と医療に関わる法律について説明し、診断書・検案書・証明書などの医師が交付しなくてはならない文書の作成方法、医療現場における医師の対応や適切な判断などについて解説する。	山田真嗣	9 - 2 3	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】臨床検査医学・輸血学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】1コマ
科目責任者	【主題目】大西宏明 教授		
担当教員	【主題目】 准教授 安戸裕貴 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	臨床検査および輸血医学の重要知識を整理し、その理解を確実なものとするにより、臨床医学科目で学ぶ様々な疾病の診断・治療に役立てる能力を養う。
B．到達目標	臨床検査および輸血医学領域の基本事項を身につける。 基本的な生理機能検査を理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1．採血の手順と注意点、および合併症と予防について述べられる。 2．検査の感度・特異度・尤度比・ROC曲線の意義を理解し、検査後確率を計算できる。 3．検体検査の意義と検査値に変動を与える要因について述べられる。 4．生理機能検査の基本について理解できる。 5．輸血検査の原理と方法、および輸血の意義と適応、合併症について述べられる。
D．学習内容	過去の臨床検査および輸血医学に関する試験問題に基づき、要点の整理を行う。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、参考書を参照し、関連事項についての情報を得ておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび参考書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M 6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	高木康 監修 標準臨床検査医学 第5版 医学書院
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)金井正光 監修 臨床検査法提要 金原出版 (R)厚生労働省 輸血療法の実施に関する指針および血液製剤の使用指針（改訂版） (A)日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編 臨床検査のガイドライン JSLM2024. 宇宙堂八木書店 (A)上田剛士著 内科診断リファレンス 医学書院 (R)日本臨床検査標準協議会編 標準採血法ガイドライン（G P 4－A 3）学術広告社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】臨床検査医学・輸血学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/16	水	2	検体検査・生理検査・輸血	臨床現場で重要な検体採取や血液検体の取り扱い、検体検査・生理機能検査の基礎および輸血について、実際の過去の試験問題を通じて復習する。	安戸裕貴	標準臨床検査医学p3～44, p337～369+プリント使用	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】病理学	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】柴原純二 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 柴原純二 教 授 藤原正親 准教授 長濱清隆 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A. 教育の基本方針	病理所見を正しく読み取り、臨床所見と統合の上、疾患の確定診断を下す能力を身に着けることを目的とした教育を行う。
B. 到達目標	主要疾患の病理形態像を理解し、臨床所見と合わせて疾患を正しく診断できる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C. 修得すべき能力	1. 主要疾患の病理組織像を説明できる 2. 形態所見から、鑑別診断を挙げられる 3. 臨床所見と病理所見を統合し、疾患の確定診断を下すことができる
D. 学習内容	系統講義・臨床実習で取り上げた主要疾患の病理組織像を復習し、知識の更新を行う。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	病理学講義・実習を復習し、関連する知識を整理しておく。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	配布されたプリントおよび教科書の関連ページを熟読して復習する。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H. 成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。可否判定は「M6 総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布

I. 学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	ルービン病理学 西村書店 2017
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 病理組織の見方と鑑別疾患 医歯薬出版 2020 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) ロビンス基礎病理学 丸善 2025 (R) 標準病理学 医学書院 2023 (R) 解明病理学 医歯薬出版 2021 (A) 外科病理学 文光堂 2020 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表
「添付資料」参照

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】病理学

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/2	木	4	病理診断総復習（1）	主要臓器の代表疾患について、臨床所見や病態を理解するうえで必要な病理学的事項を再確認する。各疾患の組織所見のポイントを解説する。	柴原純二	資料配布	講義
10/3	金	4	病理診断総復習（2）	主要臓器の代表疾患について、臨床所見や病態を理解するうえで必要な病理学的事項を再確認する。各疾患の組織所見のポイントを解説する。。	藤原正親・長濱清隆	資料配布	講義

年度	2025年度	学年	6年
学科目	【学科目】臨床総合演習 【主題目】社会医学（公衆衛生学）	科目ナンバリング	【学科目】FME-5H04
単位	【学科目】14単位	コマ数	【主題目】2コマ
科目責任者	【主題目】 荻田香苗 教授		
担当教員	【主題目】 教 授 荻田香苗 准教授 吉田正雄		

A．教育の基本方針	医師として具有すべき公衆衛生に関する知識を全般的に確実なものにし、個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を修得することを目的とする。
B．到達目標	健康課題の解決のために必要な保健医療制度、医療経済、社会保障・社会福祉に係わる知識を身に付け、さらに関連法規の種類とその基本的内容、各種医療専門職の役割、疫学の方法論について説明できるようにする。予防医学、臨床医学、福祉活動の相互関連性を理解した上で、望ましい地域保健活動ならびにグローバルな保健医療活動を実践できる力を養うことを目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑪, (3)-①,②,③, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1．集団の健康増進・疾病予防に有用な公衆衛生的事象や概念について説明できる。 2．わが国の保健・医療・福祉・介護の現状と問題点を述べることができる。 3．わが国の保健・医療・福祉・介護における対策・制度を説明できる。 4．公衆衛生関連の統計を収集し分析する能力を身につける。 5．公衆衛生上の課題を解決に導くための基本的態度・習慣・考え方を身につける。
D．学習内容	公衆衛生学の各単元のトピックスについて、重要事項の総復習を行う。プリントとスライドを用いて双方向的なQ&Aおよび演習を行い、公衆衛生学の幅広い領域の要点を整理する。
E．実習・課外授業	1．実習 なし 2．課外授業 なし
F．準備学習の内容	臨床総合演習の一環として行われる「公衆衛生学」の講義であり、総合的な理解を目的として講義を行う。すでに系統的な公衆衛生学講義を終了し、内容を理解していることが前提である。事前にシラバスの「講義テーマ」と「講義内容」を把握して時限ごとに網羅される範囲を理解し、M3衛生学、M6公衆衛生学で受講した内容を復習しておく（所要時間の目安：各コマ75分程度）。
G．復習学習の内容	演習で配布・解説されたプリントと参考書「国民衛生の動向」の関連ページを確認して復習すること（所要時間の目安：各コマ75分程度）。
H．成績評価の方法・基準	総合試験で判定する。合否判定は「M6総合試験に関する内規」に従う。臨床総合演習の授業時間の3分の1を超える欠席があった者は、総合試験受験の資格を喪失する。 フィードバック方法：試験終了後に問題解説書を配布
I．学習指導書	
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	New Simple Step 公衆衛生 高橋茂樹、西 基著 第2版 総合医学社 2023 ISBN 978-4-88378-931-3 6,500円+税
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 厚生統計協会発行の「厚生の指標」の特集号、「国民衛生の動向」2024／2025（2025／2026年版は8月末～9月初め頃に出版される）2,970円(税込) ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
J．講義予定表	
「添付資料」参照	

2025年度 6年 講義予定表

【学科目】臨床総合演習 【主題目】社会医学（公衆衛生学）

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/23	木	1	問題演習Ⅰ	以下の公衆衛生関連分野について問題演習を行う。医の倫理、患者の権利、医学研究と倫理、職種と社会資源、リハビリテーションの概念、ノーマライゼーション、診療情報と諸証明書、医療の質と安全の確保、医療面接、死と終末期ケア、チーム医療、生活習慣病とリスク、【保健医療論】健康の定義、国際生活機能分類、保健・医療・福祉・介護関係法規、保健・医療・福祉介護従事者の現状と役割、地域保健・地域医療、国際保健など	吉田正雄	2-407	演習
10/23	木	2	問題演習Ⅱ	以下の公衆衛生関連分野について問題演習を行う。【予防と健康管理・増進】予防医学と健康保持増進、人口統計と保健統計、疫学とその応用、感染症対策、産業保健、環境保健、【生活環境因子・職業性因子による疾患】アルコールによる障害、喫煙による障害、産業中毒とその他の職業性疾患、物理的原因・生活環境因子による障害など	菊田香苗	2-407	演習